落葉集 人倫下 巻十二

太政官文庫
和書 門
類 八〇三三
號
函 九四九
架 二五
冊

内閣文庫
和書
類 八〇三
號 二九三
冊 二
函 八
架 一六

内閣文庫
番號 和 8033
冊數 25 (12)
函號 208 48

糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

落葉集巻之十二

人倫門 下

コ之部

小督局（コゴウノツボネ）

櫻町成範（サクラマチシゲノリ）の女（むすめ）。高倉院の后（きさき）。清盛（きよもり）の娘（むすめ）。孫（まご）。仲國（なかくに）と使（つかい）を通（かよ）はせしが、小督は想夫恋（サウフレン）の一曲（きょく）を弾（ひき）ぬ。一説（せつ）に高倉院、寵（ちょう）女、嵯峨（さが）の庵（いほり）に引（ひき）籠（こもり）、後（のち）城列大井川（おいがわ）に入水（じゅすい）。又説（せつ）、高倉院、妃（きさき）の事迹（じせき）、盛衰記（じょうすいき）に見（みえ）たり。墳墓（ふんぼ）は今（いま）嵯峨（さが）の

明治十二年購求

天龍寺洛東ノ清閑寺ヨリ在りと云云

小式部

小式部ノ内侍ハ上東門院の女房（女房ハ女官の名なり）

和泉守道貞の妻（ムスメ）ハ和泉式部と云なるも世を経

て年ふるまゝに二人ともに母の式部を保昌（ヤスマサ）ハ具して

丹後の国へ行るゝに小式部も

この旅の列に加へられ中納言定頼卿の方へまゐで

あるに京にいまだ丹後へ人遣りもせんや

彼方へ使ひ遣はせんなどいふほどに

ぜひなくとりあへず

大江山いくのの道の遠ければまだふみもみず天の橋立

大江山丹後の国の山なり幾野ハ丹後の郡なり

歌ハ中納言ハ丹後へ人遣りもせんやと

笑ひ丹後へ橋立の事ハ

人ハ知らんと云ふ心なり

丹後へ人遣りもせんやと云ふ

彼方へ使ひ遣はせんなどいふ

歌ハ中納言ハ丹後へ人遣りもせんやと

笑ひ丹後へ橋立の事ハ

人ハ知らんと云ふ心なり

優なるに如かず即ち感じて今の名あり民
となり二八ばかりの少女の名なり
古人の名なり

ごしちの御門　源氏帚木の巻に仕へ奉りたまふ
古御等とあり　ふるごと　仕へ奉る女房の中
なるべきなりとて古御等とあり○一説に後達に後
漢書の註に鄭玄曰后之言後　諱在夫之後故以女謂
後達とあり又呉竹集に後達とは女の異名なりとあり

ことものごぜん　産婦とあり源氏物語に見えたり

このうみ　兄の事なれば上にあり

こまつ　乳母の事なり源氏にあり今も和歌あり

のこれり

後鳥羽院　高倉院の第四の皇子八十二代の帝建久三年
十月十三日関東夷の沙汰にて隠岐の国へ遷し奉る
延應元年二月廿二日崩歳六十三顕徳院と号す和歌を
よくしたまふ

後醍醐天皇　後宇多帝の皇子花園院の東宮となり亡
十五代の帝なり吉野に行幸南朝と称し奉り天下南朝

北朝と二ツ ゆとうま 年号二ツ行なはれ日本例なきなり

後水尾院　後陽成院の皇子百九代の帝なり和哥及書を善

しめす

後徳大寺　東宮大夫公實の曾孫徳大寺左大臣實能の

孫大炊御門右大臣公能の子し左大臣實定又の名部

出せり

惟喬親王　文徳帝の皇子御弟惟仁と位を爭ひ如家

しめす詩哥の達人し惟仁を即位しめ清和天皇と

申奉る

近衛尚通　准三后法名大證院法性寺と号す書法能

井家より出る一家をなす天文十三年薨ず

近衛前久　尚通の孫法名龍山書法歌道の達人慶長

年中薨ず信尹信尋と代々書を能くせしめ

恒徳　太政大臣藤原の爲家の子

維茂　平の繁盛の男伯父貞盛の養子智謀武畧の人

世俗紀聞に奇怪を附會

後藤兵衛尉　實基と称す保元平治の乱に大功あり其子

左衛門尉基清義久の乱に誅せらる

後藤祐乗　刀劔の飾具彫刻の名家なり、

後藤良山　名八達左一郎と称し、又養庵と称し、京の醫なり、

本邦古方の祖なり、享保年中没す、

近藤桂安　壽伯院と号す、京の名醫なり、法印叙せらる、

金剛兵衛　筑前の刀工、盛高左文字の末葉なり、

小堀宗甫　遠江の藤原政一、茶道一流、又画の名あり、正

保四年卒す、歳六十九、

小嶋宗真　光悦流の書を善くす、

小嶋亮仙　周文の末葉にして画の名あり、

児島高徳　佐々木三郎盛綱の代、備後の人、文武兼備なり、

古筆了佐　平氏、江戸古筆目利所の祖なり、書を龍

山に学びしなり、

言水　池田氏、紫藤軒と号す、俳林維舟門人、享保年中没す、

歳七十、

湖十　俳林、其角門人、秋色より点式を附属す、

固山　名八一聖、天竜寺の住僧、書を善くす、延享年中寂す、

瑚海　名中珊、明より入り、後に越後の慈光寺に住す、

徳の作なり、

興宗　名ハ宗松、大德流の系、大永年中寂ス

言外　名ハ宗忠、大德流の系、慶長年中寂ス

虛無僧　普化禪師の遺流、今世に稱する所の者ハ朗菴を以て始祖とす、又神龜門なり

孔子　魯國昌平鄉人、名ハ丘、字ハ仲尼、河目龍顙、龜背、身長九尺六寸、生ながらの聖人、弟子三千人、周敬王四十一年四月八日薨、歳七十三、開元二十七年、後に文宣王と謚、天下廟を建て祀事今に至て絶ず

孔鯉　字ハ伯魚、孔子の子、

孔伋　字ハ子思、孔子の孫、中庸を作り

孔武　字ハ子順、孔子八世の孫、魏の相

孔鮒　字ハ子魚、秦の始皇に仕へ、孔子九世、孔叢子を作り

孔安國　字ハ子國、漢の武帝の大夫、孔子十二世の孫、

孔明　字ハ孔明、蜀の劉備召て攝政とす、渭南の陣中に卒ス

歳五十四、忠武侯と謚ス、又蒙求に云、諸葛亮字ハ孔明、琅邪陽都の人、躬耕隴畝、徐庶見之、謂曰、諸葛孔明ハ臥龍也、又三の部諸葛亮の所に出ス、合せ見て

孔文仲　字ハ經父、宋の書家、

孔融　字ハ文舉、孔子二十世ノ孫ニ、北海の相ニ、後ヶ漢の儒ニ名ノ有ル人

公冶長　字ハ子長、孔子の弟子ニて壻ニ、一説ニ音ヲ通ジ鳥雀の語を解ス

公西赤　字ハ子華、孔門ニて礼を好ム人

公孫龍　字ハ子石、孔門七十子の内、一家の学を立ル人

公孫弘　漢の時、苦学して名ヲ成ル人

伍子胥　楚人、名ハ員、呉王に仕ヘ、身の長一丈、眉間一尺、呉越の戰の時、呉王を諫メて誅セラレ、○呉王を夫差と云ひ、越王を勾踐と云ふ、両方相戰ひ、越王勾踐會稽山ニ籠リ、辱を受けて、呉王に降ル、今一度雪辱をなし、呉王を滅さんと、此の時呉王、驕奢をきわめ、かつて文越王を助ケ、伍子胥を去り、諫メれば呉王、此の諫を用ひず、却て怒リ、伍子胥を屬縷の剣を賜ふ、呉王、海ニ投ジて、伍子胥大ニ怒リ、人ヶ呉王智なくして、吾を殺ス、此の後ハ越王の滅さんと、我死セバ、墓を東門ニ掛ケ、吾呉の滅ぶを見んと

云〻自殺せり、其後果して越王の責られたびあるなり、

呉王夫蹠　越王勾踐と戰ひ敗られて滅されぬ、

伍福　字天錫、元の書家、

五柳先生　潯陽柴桑里人陶淵明也、其の宅邊に五株の柳栽、故に自稱して五柳先生と云、又⑦の部に出ス

呉起　妻を殺して將を求め魯より魏に入り、又楚に入る、楚の家族の乱に命を殞す、

呉融　字子華、唐の昭王の時の儒、

呉道子　名元、仙術を修し、又画を善くす、唐の玄宗勅して山水を宮墻に圖せしむ、其の石岩の間に一の洞あり、呉道子此に入り、徳を見る、鍾馗は此人初て画せり、

呉玠　宋の時智勇兼備し、蜀を禦ぐ、

呉澄　字は幼清、臨川の地名を号とし、草廬先生と称す、元朝聖学に力を用ひ、著述多く、又書を善くせり、

呉元輔　字は正臣、宋の書家、

呉福孫　字は子善、容野叟と号、元朝の書を善くす、

呉壽民　字ハ伯仁、元の書家なり。

呉鎮　字ハ仲圭、梅花道人と号ス、元朝の画家なり。

呉太素　字ハ季子章、松齋と号ス、元の画家なり。

呉國倫　字ハ明卿、川樓と号ス、明の詩人七才子の内なり。

呉賢　字ハ友尊、松亭と号ス、書家なり。

呉雁門　野農と号ス、書家なり。

呉苑　字ハ楞香、清の書家なり。

呉琚　字ハ居父、雲壑と号ス、清朝の書家なり。

呉宏　字ハ遠度、清の画家なり。

呉象之　盛唐の人、詩を善くス。

呉猛　何しの時の人なり未詳、八歳なりしに孝行の名あり、甚家貧にして窮貧なりしに夏の頃蚊帳なきに、父母の蚊を防ぐなるを知りて、己が衣を脱ぎて父母を覆ひ、赤裸にして傷まざるに、父母厳しかりしかども、蚊ども敢てさされざりしと、二十四孝の内なり。

吾丘衍　字ハ子行、元の書家なり。

貢師泰　字ハ仲章、元の書家なり。

江草　字ハ次翁、齊國臨淄の人ニシテ父ハ元末毎事ニ至ルニ其ノ天下乱レ人毎ニ背ク肩ヒ形ヲ
ゲ難難ト雖モ栖ヲ失ハ人ハ傭ハレ
其の僕ヲ売テ無ク其ノ名世ニ
ラレ朝廷ニ召レテ博士ト為ル
其ノ日ニ

國姓耶　元ト日本肥前ノ国平戸の民ニ明ニ仕ヘ鄭成功ト
称シ明亡ビ忠義の為ニ清ニ降ラズ永暦五年二月塔
伽沙古ヨリ渡ル

顧野王　字ハ希馮、陳の時、經史・蟲篆・奇字及ビ地理ニ達シ
玉篇を著ス

顧信　字ハ善夫、楽善處士ト号ス元の書家ニ

顧亨　字ハ汝嘉、清の書家ニ

顧況　字ハ逋翁、姑蘇人、唐の詩人ニ

顧炎武　字ハ寧人、亭林ト号ス清の書家ニ又山水の画ヲモ

顧可久　字ハ与新、洞陽ト号ス清の書家ニ

顧璘　字ハ華玉、東橋ト号ス清の書家ニ

顧企　字ハ宗漢、清の画家ニ

顧外　字隅東、外山と号、書家なり、

顧孝先　字根生、書家なり、

顧鳳翔　字羽星、桐村と号、書家なり、

胡安國　字康侯、謝上蔡門人、宋朝に春秋傳を著す、

胡致堂　名寅、字明中、胡安國の長子、宋の儒者なり、

胡五峯　名宏、字仁中、胡安國の末子、宋の儒家なり、

胡憲　字原中、籍溪と号、胡安國の從子、程門謙夢授に学ぶ、

胡瑗　字翼之、教授官となり、經義学、治事学を立つ、

教授芫文正公の門人なり、安定と号す、

胡炳文　雲峯先生と号す、宋の儒家なり、

胡益　字八士弓、元の書家なり、

胡敬齋　明朝の儒家なり、

侯夫人　宋の時、河南の程子の母なり、無双の賢女なり、

追加

九重　吉原江戸町西田屋の遊女なり、よく詩を作る、

工 工 之両部

鹽冶判官　高貞と称す、事ハ太平記に出ル、

遠藤盛遠　誤て婦を害し遁世し、文覚と云、又㊟ノ部盛遠の所にもあり

江村専齋　名ハ宗俱、倚松庵と号す、京の儒家、寛文年中没ス、歳百

越後法眼　画の高名、

枝至元　隼人と称、書法定家流なり、

蝦夷　蘇我ノ馬子の男、入鹿の父、豊浦大臣と稱ス

役行者　事ハ神釋門に入ル、又ハ天人の法へとも役行者小角なり、

樓木僧正　事ハ神釋門にあり、

延鎮　京清水寺の開山、田村將軍高丸を伐時、勝軍地藏、勝敵毘沙門を念じ、後其ノ像を見るに矢あと刀痕あり、大同二年大檀那にて造立あり、

悦峯　名道章、黄檗流の高僧、書を能ス、

惠慶法師　先祖ハ寛和の頃人、播磨国の講師、

講師（コウジ）となむ。国々より國分寺を建て、是より僧師讀師（ドクシ）
なりなんとす。延喜式にはこれ恵慶（エケイ）見し、於ハ
○恵慶の慶ノ字、ケウと讀ムべし。

瑩玉硐（エイギヨクトウ）　宋朝の僧、画を善くし、又玉硐の所を知ス

越王勾踐（エツワウコウセン）　姓ハ夏、呉と戰ひ擒（トリコ）にし、會稽山に栖（スム）事多
年にして范蠡蜀が謀（ハカリ）に従ひ、勅を受て國を放（ハナ）て歸（カヘ）さん、再び大
兵を起して、呉を呉王夫蹇（ホウヒ）を亡し、會稽山の恥辱を雪（ソヽ）ぐ

燕丹（エン タン）　燕国の太子、名ハ丹、秦に質（シチ）にして親（シン）の事（ツカヘ）ありしに、
始皇ノ日、白烏出（イデ）て沙を降し、馬を降さんと願ふ天
子至誠感じ給ひ、白烏出て沙を降し、馬降す。始皇
歎じて放ち給ひ、故国に帰り給ふ。

姚思廉（エウシレン）　隋の姚察（エウサツ）、字ハ伯審の子にして、初隋に仕へ、後唐の
弘文学士となり、魏徵と同く梁書陳書を撰ム

姚樞（エウスウ）　字ハ公茂、雪齋と号ス元朝の画家にして、

姚安仁（エウアンジン）　元朝の画家にして、

姚泊（エウハク）　字ハ惟恩、黒仙と号ス明朝の画家にして、

姚宗（エウソウ）　字ハ継宗、明（ミン）の画家にして、

姚雪泊（エウセツハク）　字ハ雨若、清（シン）の画家にして、

袁了凡　名黄、字ハ坤儀、明朝の人、歴史綱鑑を著ス

袁宏道　字ハ仲郎、明ノ儒ニシテ十集其外著述アリ

袁尚統　字ハ壽枝、清の画家ニシテ

衛瓘　字ハ伯玉、晉朝ニ書ヲ善ク、父ノ名ハ顗、書ヲ張芝ニ学ビ瓘ハ父ニ学ビ父子共ニ名家ニシテ

衛恒　字ハ巨山、博雅ニシテ四躰の書ヲ作ル、張芝の門人ニシテ晉世の名筆ニシ

衛萬　姓氏アリテ字ハ重ニシテ唐ノ詩人ニシ

衛夫人　名ハ鑠、一ニ李夫人ニ作ル、晉の李矩の妻ニシ書ヲ

鍾繇蔡琰ニ学ビ妙所ニ到ル

閼氏　匈奴の皇后の稱ニシ索隱ニ見ヘタリ

追加

衛士　左右衛門府の被官ニシ禁門ニ在テ篝ヲ焼テ非常ヲ拒者ニシ

譯人　和漢の言語ニ通ジタル人ヲ以テ通事ニ通事ヲ是ニ又是ヲ古人ニ象譯ヲ以テ蕃ヲ通事の名ニシ

英雄　才千人ニ過ルヲ英ト云フ、膽力過人ニ謂之雄ト

劉邦人物志云、草之精秀者為英、獸之群者為雄、人文武茂異取名於此、故聰明秀出謂之英、謂之雄、張良是英、韓信是雄、云武將假借為英雄ノ字ノ

援兵　加勢の事ニ、援ハ、タスケと訓ス、兵を援ス、故ニ軍の加勢を援兵といフなり

屠兒　牛馬の肉を屠て賣者をいフ、又屠人、屠者等同ジ、俗職多ク云フ、俗用ニ近シ

テ之部

てならひの兒　源氏物語母の事ニ、はつかなる小女の所にまらひて、小弁に給ふ、とつれなくもてなしたまふ、

てごな　手児名、手児名ハ下女也、

てく　父邪、てくてくと、人の父をてくあやまりて、父邪と申も親の事

父とのゝ日ゝ、メチツトの通言なるべし、

てる姫　光仁天平城帝の御時融公の女、日本一の美人なり、

天智天皇　舒明天皇第一の皇子、三十九代の帝、和名抄に

云、○天智天皇より元食の相なりと云俗説共、

腹赤の御贄の俗説に天智天皇未だ位に即き玉へ

ざる時、元食の相をいまだ者なりしかば

朕帝位に即き元食をぐまれば備ル

相なのうまがゝ即位は家をそゝ相を果さんと西

国に御修行あり、筑後の国江崎小嶋云所を過ぎ

給ふ小嶋に望み給へども、借御まつりてなる

なるべし網を引く海人魚紙を乞給ふ御労を

体なりとて、元魚の名を問給へども腹赤

と答へ、なる故御即位まして、魚紙

年魚を備へなる贄の御贄の初め、腹赤は石

鮒魚と云又は鱚のことを用ゐと云云、今按るに

此俗説各非し事は日本紀に詳し、文繫れば冗畧

天武天皇　天智天皇の御弟、四十代の帝、和名抄に云ふ

定家卿　五条三位俊成卿の男、京極黄門と称す、小倉山の居り、中興の歌仙、上代筆法の高名、定家流と称す、仁治二年八月十日逝す、歳八十二、法名明静、

貞信公　太政大臣昭宣公の男、関白摂政忠平卿、

貞徳翁　松永氏、俳諧一道の宗匠、又㊀部松永の所よ

歩くもの合せるべし、

貞室　安原氏、正章一壽軒と号す、貞徳門の俳林、言名多り、

延宝年中没す、「見ハ〳〵ゝ花乃うしろ」ゝ

以貞室の句ゝ

貞柳　一名信乗、菓子を製し、一銅屋と称す、永田氏、狂歌の

言名多し、㊀ノ部ゝ

貞知　乾氏、貞室の子、俳林、宝永年中没す、

貞陸　貞室門の俳林、

提亭　下邑氏、其角門の俳林、

蝶々子　貞室門の俳林、百沼の坂の人、

寺井養拙　名八子共、志津磨門人、書、

寺島良安　和漢三才圖會の作者、大坂人、

寺田無禅　上代流、書法一家をなせり、

寺澤政辰　友吉と称す、享保の比書一流し、

手塚太郎　光盛と称す、義仲の臣なり、

徹書記　姓八紀、名八正徹、字八清岩、東福寺の松月庵に住、後

山科に移り、月庵と号す、和哥を好み、業を今川了

俊に受く、又国字を以て世に定家の後身と云、長禄

三年寂す、

兆殿司　淡州の人、洛東福寺に住、画を善くす、又神釋門(ヲ)

部に出で、合を見る、

帝堯　陶唐氏、名八放勲、火徳有りと云、王さう史記に詳し、

趙高　秦始皇崩じて政乱れ、諸臣の前

に鹿を指して馬と云、衆の已に従ふを試む、又説に

秦始皇天下を取て後、諸国を廻り、遠年にして崩ず、佞臣

李斯、趙高、両人始皇の太子扶蘇、其正きを忌み恐れ、此

人を嗣しとせざるべきの胡亥、愚なる人の

始皇の遺言と偽て扶蘇に自害せ、胡亥を位に即

かしむ、是を偽りて趙高朝恩に乗じ、諸臣の我を

恐れざる者を忍び罪に処し、猶も己が権威を試んとて

或時鹿を奉りて馬と云ひしが、胡亥はなほ

群臣より問へば答趙高が權勢を恐れいかもせん善馬と
答へしとも是ならん人をもつて試みるを馬鹿とも
詞初もなりしと

趙雲　字は子龍蜀の鎮東將軍英勇の忠良なり

趙岐　後漢の人初め經学を力なし孟子の註世に行
はる趙岐註本見へし

趙至　字は景眞晉の嵇山康の学舎に遊べり

趙嘏　字は承祐唐朝の儒家なり又詩を善し

趙汝愚　宋孝宗の賢相なり

趙普　字は則平宋の相なり書を善し

趙子昂　元朝の学士名は孟頫書画を善し其妻管氏も
亦書画を善くせり世に是を婦子昂と云唐の詩人松雪
道人と号す

趙雍　字は仲穆子昂の弟なり書を善し

趙式　字は訓夫明の画家なり

趙壽　字は南山明の画家なり

趙珣　字は枝斯明朝の画を善し

趙官光　字は凡夫明朝の人博学にして字学に精し

書と号し又草篆よめし説文長箋と著す

趙継宗　字ハ子直、敬齋と号ス明朝の醫家し

趙獻可　養葵と号ス又ハ無周子と号ス明朝の醫家し

趙開美　清常道人と号ス明朝の醫家し

趙子澄　字ハ處廉清の世の書家し

趙潢　字ハ錫爵淞陽又ハ玉峯と号ス清ノ世の書家し

趙徵　字ハ徵遠清の画家し

趙飛燕　漢の成帝ちゝ后とし元ト長安の賤民の女し歌舞ヲ

ちゝ燕の飛び翔るごとくこのゆゑに飛燕と名づく

傾国の美質し

鄭玄　字ハ康成後漢の人馬融の門人し大イ名ありとの禮記を註ス鄭玄注本と云ハ是し世ニ行ハる

鄭樗　字ハ無用空同生と号元の書家し

鄭錄　字ハ克敬元朝画家し高名し

鄭培　字ハ山如古亭と号花鳥の画と号ス

鄭文賢　字ハ宗儒明の書家し

鄭子龍　字ハ飛虹明ノ書家し

鄭嵩　字ハ天峻潁溪と号清の画家し

鄭覃山　字ハ研生、書ヲヨクス、
鄭審　開元ノ時ノ人、唐ノ詩人ニシテ、
晁錯　漢ノ高祖ノ功臣、
晁補之　字ハ无咎、宋ノ書家ニシテ、
鉄拐　氣ヲ吐キ吾カ形チヲ吹キ出ス術ヲヨクス仙人ニシテ、
丁令威　仙術ヲヨクシテ鶴ニ化シ後ニ故郷ニ帰リ華表ノ柱ニ止リ吟ジタルヤウ、
丁書嵓　宋朝の書家ニシテ、
丁徳用　宋の醫家、難經補註ヲ著ス、

丁宦年　海巣ト号ス元の書家ニシテ、
丁野夫　回紇の人元の画家ニシテ、
丁雲鵬　字ハ南飛、吉雲居ト称ス明朝の画家ニシテ、
丁守訓　字ハ瑾懐、石操ト号、書家ニシテ、
丁鳳　字ハ文瑞、竹溪ト号ス明朝の醫家ニシテ、
丁元薦　字ハ長孺、曲肱ト号、明朝の醫家ニシテ、
丁仙芝　曲阿の人、官餘杭ノ尉ニ至ル唐の詩人ニシテ、
丁蘭　漢の河内の人ニシテ、小ニシテ父母ヲ喪シ思ヒ慕フノ深キヲ形ヲ木ニ刻ミテ事ヘ奉ルヤウニ致ス

[illegible]

程子　姓ハ程、名ハ顥、字ハ伯淳、明道と号ス、其弟、名ハ頤、字ハ正叔、伊川と号ス、宋朝の周茂叔の門人にして、大儒、

書、[illegible]

程鉅夫　名ハ文海、雪樓と号ス、元の書家、

程震　雨亭と号、楷の書あり、

程連城　東籬と号ス、書、[illegible]

程劍南　字ハ玉鋗、竹涇と号ス、楷書、[illegible]

㋐之部

淺畫　淺畫とは白拘の属なるべし、其姿烏帽子水干を被て、軸を持て船に乗て、[illegible]船に乗て、[illegible]方なりを曳く、[illegible]と云も古へは船なり、[illegible]と云へり、愛川所のなり、[illegible]云へり、何とかの辺を離れて今[illegible]程千代丸[illegible]の[illegible]数なるべし、又或淺子と云、淺畫とは源氏物語の[illegible]の淺船とて[illegible]又近代の[illegible]名なり、且妻あり、淺書は用ひ、

あてき　小女の通名なり　源氏物語の玉鬘の巻に

あげまき　總角とも　十四五歳の童形を

云　又堂のあげまきに牛馬なのごつゝ結ぎ童を云

源氏　あげまきのもとに琴をなほしたるもあはれ

あこ　阿古久曾　紀の貫之の童名　紀望行の子

天慶九年卒ス

あてびと　あてある人とも　いやしからぬ人

又宮ゝに仕へる女房とも云　又うまれをあてという

「あてやか」「あてなり」「あてなる」「あてがる」

「あてがる」　又風流なること

あこ　吾兒　云兒　幼少の者をこゝにて云　源氏

帚木の巻に「あこ」なりけり　又あこ　後小松

院の清所を云　清所とは指図を知る

御中井　「一休」あこ後小松院の落胤なりと云

遊歌　遊歌とは拍をおくり　源氏の

老に、「御おとび歌どもを、堂上家・布衣以下の侍を
あとをさぶらひ　青侍（アヲサブラヒ）にて、
海士（アマ）のすむ里風吹くべ　は一系ハ海士（アマ）にかよひつよ人倫の
部なれかくこそ、
古今集
海士の住む里風吹くなれば人ならねども
はかなくも海士の住む里のたるべきと
海人と恨てそなつらくるる恨るんを通こ
海人恨家集
なれとこそ海士は住む里風吹くべ海人のよそつ
は海士（アマ）の知ものあと　海士の乙女（アマトメ）なるべ蜑の事をいて、天
あまびと　海人（アマビト）し蜑（アマビト）人しる　玄、又海士（アマ）、漁人（ヨリビト）、白水郎（ヨリビト）
蜑を用し、大ことを蜑、海士（アマ）のことを用ひ事あり、
海士のよび声　海士の海ちうあがりて鳥つぶ部の
人とをるべ似ればは声といふ
あまよあぶるとりせ　詞を多くいとど、西院ハ万葉集
毎のこのことを「毎ことにかなべ海士ことにかなべ

果(ハツ)といふはかきりて　あまりとふ事を極ていふなるへし

あまのさへつり　海士(アマ)のことの言葉也　源氏すまに

海士のまてかた　あまのまくらに成説々の説は

さ　海女のまてかたとは馬刀(マテ)と云貝の砂の中に入てあるを指す

なり　又清輔(キヨスケ)の説は蜑のまくらとはこくとて文字にあ

ひ合れバ謂かるといふまてかたは海の干(ヒ)潟(カタ)に沈みたる

くらつ砂をまかちりて沈をるまくと云ぐ八雲御抄には

まてかたを用ひたし或ひと云まてかたは塩浜とあ

らに在具くともいへり説區(マチ)〳〵なり一定せんぐ

浮藻の海風あまりまてといふはなかくて若めて恐あ

ば命にも海辺に蛤の砂の中に入りて砂を吐出すると見えて

海人(アマビト)へ馬刀(マテ)かたとて蜑(カヅキ)のまての細き二尺ばかりなる具也そ

是をさしおろしてまてを取るにもあるとなり　一説には

無(ナシ)といふ詞といふなるへし

あまの苫　蜑の家敷　海士の泊(シラ)と云り

たきの糸　あさりする所は深きにて母にあまの泊は

あまの川ねとめ　天女といふて天津乙女と云り

あふとん(ビト)　源氏帚木の巻に一すきうすきにあふくへ

[illegible]人と云化の字をめて[illegible]のとしてあど
[illegible]て化男とぬるのくの
[illegible]

明日皇子　久我姓の祖く歌人兼和元年薨ス

阿保親王　平城帝第三の皇子叶御子備中守本主ハ
大江姓の祖く

敦忠　左大臣時平の男枇杷中納言の人く

敦盛　平参議經盛の男無官太夫一ノ谷ゆて熊谷次郎
直實ふ討し

顕輔　六条修理太夫顕季の三男藤原姓左京大夫六条
家の和歌の流久壽二年出家ス

安倍仲麿　孝元天皇の皇子太彦命の後し古傳に云
中務太輔船守の子ト云く元正天皇の御宇靈亀二年八月
遣唐使大伴山守小同船して入唐ス或ハ説ニ云多治
比ノ縣主遣唐使として入唐せり仲麿学生ト云
從ひ[illegible]歳十六ト云く唐書列傳に云朝臣仲
滿易姓名ノ曰朝衡ト唐帝ニ仕て秘書監ニ至り檢
校ふ[illegible]左補闕ト[illegible]後ヶ藤原ノ清河ト共ニ

本邦より敬孝謙帝天平勝寶元年に即て天寶八
年より當也後天寶十二年朝衡復入唐代宗大曆
五年七十有餘歳にして唐の地より卒乃我が朝光仁
帝寶龜元年庚戌より下也されば仲麿一度歸朝
して又入唐の後唐にて卒せしまあきらかに十の說に
出べ今もうたがふ

安倍廣庭　左府卿主の男　授中納言養老の頃の人
人し

安倍晴明　廣庭七世益材の男　花山院の朝の人　賀茂
保憲と師し　天文の蘊奥を究め　從四位下大膳太夫　子
孫代々司天筭術の長し　今に至て絶ざるなり

安倍貞任　安倍頼時の長男　二男を宗任と云　兄弟私ごとを
若干の說に出

安達盛長　藤九郎と稱　於鎌倉の功臣を賜名卿より
出デ藤氏し

足立遠元　盛長の弟にて別家し奉て尉　鎌倉大臣の
列し

足利尊氏　三郎源貞氏の男　治承元癸正二位授大納言

征夷大將軍足利十四代の元祖、延文二年四月晦日薨ス、
歳五十四、等持院殿贈大相國と稱ス
足利義政　尊氏八代文明年中隱居し、東山殿と稱ス
ⓒノ部東山ノ所より出金アリ
在原業平　阿保親王の五男、在五中將と号、行平の弟、三
代實録に云、業平、休息閑雅放縱にして物に拘らず、略
才覺ありて和哥を善ス、元慶四年十月十八日卒ス歳五
十六、和州在原寺に葬る、其ノ像今なおあり、
赤松圓心　茂則の男、次郎則村入道、村上源氏、後醍醐
帝の御宇、源氏の幕下小疾に戰功を顯ス、
赤松則祐　圓心の男、律師に任ス、實名を法名とス、父と共
に武功を顯ス、
赤松太度　名ハ弘、字ハ毅甫、岩城侯の儒臣、
赤松龍南　名ハ豐泰、字ハ有年、豐太と稱ス、儒家、
赤井得水　加賀の人、文次郎と稱ス、書は井出正水に學ぶ、一
家、
飛鳥井雅孝　權中納言、法名名恵、和歌を善ス、文和
年中逝ス

飛鳥井雅親　按中納言法名栄雅、雅孝の孫、和歌を名とし、
又書法一流世に飛鳥井流と称せり、
姉小路基綱　按中納言法名常心、文亀年中逝、市息濟
継ぎ歌人なり、
浅利與一　義遠と称し越後の国鳥坂城の住、軍功の賞、
坂額女を申し乞て妻とし資成盛の伯母なり、
浅井長政　江州守護京の久政の男、備前守と称、天正元年
九月卒、歳二十九、贈正二位大納言、
浅井圖南　京師の学者、藤姓、名は直、称は画と号す、

藤直と号す、
浅見絅齋　名は安正、字は敬所と称、闇齋門人、儒家、
京師に在て教授す、
朝忠　三条の右大臣定方の二男、従三位右衛門督と称、
康保三年十二月薨、歳五十七、歌人なり、
朝康　作者部類に云、文屋康秀の男、大膳少進、或説に
云、延喜三年大舎人允に任ず、歌人なり、
朝比奈義秀　和田左衛門尉義盛の三男、母は巴御前、鞆絵
剛力無双、順徳帝の朝、和田合戦敗北、行方を知らず、

朝倉義景　越前の領主なり智と称す　浅井長政
織田信長と戦ひ滅亡せり
朝山彝林庵　名ハ素心京の人なり後光明帝詔して書
講せしめ給ふ
明智光秀　惟任日向守織田信長の臣なり主君父子共
弑し山崎の合戦に羽芝筑前守秀吉に滅せらる
春満　又ハ東丸と作る荷田氏羽倉齋宮と称す城州
稲荷の祠官釋契沖同時の人なり和歌に達し万
葉の古風を唱へ

粟田口法眼　画を善くせり名を高くせり
有馬涼及　卧雲と号す醫を達し又茶道を善くせり
秋山玉山　名ハ儀字ハ子羽習館と号す儀右衛門と称す
肥後の国隈本侯の儒臣なり
秋ノ坊　加賀の国の能林なり
新井白石　名ハ璵字ハ君美勅解由と称す後任官
筑後守と称す幕府の大儒なり
新井白蛾　易道の高名京に住す
荒木是水　志津磨門人書法一家を為す加賀の国人

跡部光海　文角と称す、幕府士、垂加門人、神号家、

青砥左衛門　藤綱と称す、相州鎌倉郡、滑川十錢を墮し、多くの人夫を雇ひ探りしめしに、事迹は太平記に見へたり

青木如水　京の人、利休門、茶家、

青木敦書　文英と称す、江戸の儒家、

青木昆陽　日本に紅毛の書を解せしの始、

安藤東野　名、煥圖、字、東壁、仕官して、と称す、下野の国、人徂徠門、儒家、

安藤爲明　初め爲章、年山と号、彰助と称す、水府公の臣、

和漢の博学、

安藤省庵　初め名、守正、後、守約と改、筑後柳川侯の臣、舞水門、儒家、

安藤清河　名、修、字、文中、江戸の儒家、

安積澹伯　名、覺、字、子先、学を澹と称す、水府公の儒臣、舞水門人、

安宅冬康　又鴨冬と称す、書を善、

安静　萩野氏、似空斎と号す、能林に負享年中没、

芦田鈍永　九如館と号す、京の茶人、明和年中没、

天野信景　治部と称す尾州公の臣鹽尻百卷を著す享保年中没歳七十三

有賀長伯　以敬齋と号す京に住す門人多し

天國　傳に云武文帝の朝人和州宇陀郡に住す本朝刀工の始し又云伯州會見郡大原の五郎太夫安綱は天國の孫天座の男なり

阿尼哥　字は西軒元朝の書家なり

晏平仲　名は嬰齊の賢大夫なり

安祿山　胡國の人姓康字は軋犖山後姓名を改め安祿山と称し唐の玄宗に用られ謀反を企て天寶十五年長安の都を陷し大燕皇帝と僭稱す事は唐書に詳なり

偓佺仙人　浮屠氏に信ずる処浮屠氏とは僧の事なり

追加

足摩乳　稲田姫の父にして母を手摩乳と云

秋好の三女　六条御息所の御女なり

葵上　左大臣の女源氏の君の小の前なり

赤染右衛門　上東門院の女房大和守赤染の時用の女

大江匡衡の妻し第一の才物語の作者なり

菖蒲前（アヤメ）　近衛院の御時源之侍従

漢織（アヤハドリ）　支那の女工（モロコシ）雄略帝十四年漢織（アヤハドリ）呉織（クレハドリ）桐

共に日本に来り摂州豊嶋（トヨシマ）郡に住し女巧の道を

教へ伝へ呉れり織り紡（ウミ）の業（ワザ）世に行はれぬ

廿之部

さごしめ　家柱良れりと云むと榊四人（サカキゴ）ある女あり、その

男に見ひられ、もあるべ、その命をたすけ、妻にしべ

女に見ひられ、者なり一女の名、みて二門なる事を

男うしぐさ、そして男のいきをきり、只命計

生ハんとて、榊の中に、ある貴をとり

こもりぬ、二人の男、今、ぶの者、

うしなりぬ、

百年草　まさごれんぐさ、男に見ひられ、榊のもとにあり、

次の男　妹（イモ）がうけ、榊も咲けば、やとりんいやとりめ、

さごしめのとぐ　さごしめと姑（シウトメ）と云く、匡房卿の説なり、

自（ジ）老女をとりて、又字を部の僻業なり、

こと説に、さごしめと早（サヲ）苗（ナエ）女（メ）、子の数、

さぶらひの名のなのさぶらひて作るゝ世をそなへてとそ

後撰集 今こそはしひも公今ふるまひのさぶらひの

丁年刀自ハ本朝の婦人夫の母をさして云ことあれ

姑の字をも用ひ侍ること。丁年ハ姑の事ゝ刀自とハ刀

自女とて宮女の稱号ゝ今のゝ婚ゝ人の今こんと

いひ〳〵ゝ事〳〵ゝ女の母をもいふなり

はかりよりれば おの定あの設ゝ左遷ゝ

さつと 物〳〵ゝ物のゝ

さすらく人 左遷人 左遷人流人とゝ又言語門ゝ

さすらある人 源氏冷泉の遺ゝ今の世の女也

すゞれゆくけさ

きゝ〳〵ゝ見ハ仏経を講ぜる衆ゝ

寛吻 毎年の能さ人ゝ

さぶらひわゝ 侍童ゝ事て例仕の童女ゝ士の

小舞男ゝ

さぶらこ 佐夫流子ゝ遊女の事ゝ萬葉集ゝ

人のゝ

さかゝきゝ 賢人ゝ又明達の人ゝ

さきの人　花山院　三条の内大臣と申す歌人

嵯峨天皇　桓武帝の皇子、平城帝の御弟にて、五十二代の帝と申す。書と名高き御筆、流麗の様

三條院　冷泉院の御二の皇子、六十七代の帝、和歌の名人

三條右大臣　勧修寺元祖良門の孫、内大臣高藤の二男、定方と称ず、歌人

三條西實隆　正二位内大臣、逍遥院と号ず、法名堯空、歌人にて天文年中薨ず

公條　實持の御子、お継ぎて歌人

三条院實澄　三条西内大臣、和歌の名人

前中書王　村上帝の御子、中務の親王、又敦実の左の大臣と称ず、文人、後中書王と称ず、①の部に有ず

相摸入道　小弟九代平高時、圓義崇鑑と称ず、諸侯にて新田義貞に攻亡さる

實方　左大臣師尹の孫、陸奥守、歌人

實朝　鎌倉右大臣、歌人、㊱の部に有ず

参議等　大納言弘の孫、中納言希の男、正四以下

叙爵

参議雅經　刑部卿頼經の男、新古今集五人の撰者、一人

和哥を号し、又蹴鞠を号す。井の裔。

参議篁　小野の篁と号す。参議従四位下岑守の男なり。和漢に通じ、名誉の文人なり。或ハ云。篁ハ破軍星の化身なり。

仁壽二年二月廿二日卒。又㊁の部に出ず。

定頼　公任の男。拾大納言と号す。

在五中将　阿保親王の五男、在原の業平。㊁の部に出ず。

佐理　藤原敦敏の男。参議正三位。能書なり。佐蹟と号す。

道風　行成　佐理を上代の名筆日本三蹟と称す。蹟ハ跡に同じ。アトと訓ず。

猨丸太夫　官姓父祖共に未詳。元明天皇の頃人なり。和哥を号す。

指神子　安倍晴明六世。陰陽頭泰親と称す。治承の頃天文數術に達し、占を号す。常に指すが如し。故に時の人弘くほめたり。

猨山周曉　字爽卿。不言齋と号す。多宮と称。長雄流うらなう。信濃一流なり。安部の氏海内大夫の称。

山西金石流　姓氏未詳。海外を歴遊し、後に大師。

佐　詩書を号す。

山タ　樋口氏、玄九門の能樹、

山路　用明帝潛龍ノ御時、豊後の国高田の長者が女を孕ませ、
ひんぐめ宮と牧童よりて、山路と号、者志と遂ケ名、
とつぐ信況のち、又回ノ部用明帝の妃、合ひ給ふ、

佐藤継信　三郎左衛門と称、源平の軍に義経の馬前を
立チ、能登ノ守教経の矢表を死、忠を抜ける、

佐藤忠信　継信の弟、四郎左衛門と称、義経渡海の時、吉
野に従ひ、山中、雲雀が岳を迷ひ出、捕らる、

佐々木盛綱　三郎左衛門と称、藤戸の海を馬にて渡、
大切をあらはす、

佐々木高綱　四郎左衛門と称、梶原景季と宇治川の
先陣を争ふ、

佐々木志津摩　専念公羽と号、七左衛門と称、加賀人、
京ノ住、後ニ敦直ノ弟、のち又大宮の法を明人陳元
賛ノ弟子玄志津摩流一家をなせり、

佐々木玄龍　字、炯甫、又池庵と号、天和の頃の人、
筆道高名なり、

佐々木文山　玄龍ノ男、淵誌と号、朝鮮国ノ返簡を書、

父子継ひで書の高名し、

佐々木汎真　名八重潛、字八漁父、平太夫と称ス、長府の儒臣、

佐々木巖流　劍術者流、人口多あれども實事未詳、

佐川正俊　黙々翁壺齋、卧輪子と号、喜六と称ス、ぶんくし、

又紫雪と号ス、一本坂和ト作ル、

佐藤剛齋　名八直方、字八子正、五郎左衛門と称ス、閭齋門人、

松平隱州侯の儒臣、

坂上是則　坂ノ上ノ田村丸四代ノ孫、好陰の男、坂上ノ望城の

父ニ後撰集の撰者ニ、大内記從五位下、歌人ニ、

坂倉美仲　安右衛門と称ス、儒ニ亦

坂内宗拾　号呂利、新左衛門と称ス、

又図ノ部ニ委ク記ス、

酒田公時　金時ニ作ル、亦ハ相州足柄山山姥の

子ニ父ニ似テ力強ク、大刀剛勇、源ノ頼光ニ仕ヘ、

○俗説ニ天延四年源ノ頼光上総の任限完て三月廿一日

登り玉フニ相模ノ国ニ足柄山ニさしかゝり向ノ岨ニ存て

赤色の雲氣あり、頼光綱を召て かゝる雲氣ハ正く

人傑の隱し居ん方ヘ尋ヌベシ、綱かしこまり

彼の茅屋の内より六旬餘りの老嫗十五六歳ばかりの
童形と只二人居たり、渡邊彼等を頼光の前に連来り
頼光彼童が相形の奇なるを歎ぜ給ひ其の姓名を問
給ふ老嫗答て曰、妾此山中に住む度数年を経
或時山の頂に登りて寢たるに夢中に赤龍來て通
ぜと見て此童を孕ませたりと云頼光扨て凡人にあらず
ぜと感じ給ひ山嫗より家臣となり名を酒田公時と
称したり○按ずるに漢書、云漢高祖豊邑中陽里の
人姓劉氏、字は季子、父曰太公、母曰劉媼、其先劉媼
嘗息大澤之陂、夢與神遇、是時雷電晦冥、太公
往視則見蛟龍於其上、而有身、遂生高祖○
思ふに此の怪説を公時が事に作りなすか
齊藤別當實盛　於義を實直の男、源家の士、後平家に
仕へ加賀篠原合戦の時白髮を染て降を乞ふ義仲
下手塚太郎光盛に討れ
齊藤東海　名維馨、元六と称す、江戸の儒家、
眞田与一　義忠と称す、岩藤三郎の男、軍勢を従へ
合戦を対死

薩摩守忠度　平ノ清盛ノ弟ニテ又ハ一部忠度ノ如ク称ス

最明寺時頼　小系相模ノ守入道学ヲ房道崇ト号ス三年天下ヲ廻リ遺賢ヲ挙ク賢明ノ主君ナリ天下ヲ治ル

俗説ニ最明寺時頼入道諸国ヲ巡ル上野ノ国小屋ニ至リ宿ニ泊テ或ル家ニ宿ス主貧ニシテ薪ヲ焚キ沖棹ノ本ヲ伐リ火ヲ焚テ暖ム時頼感ジテ云ク名ヲ聞ク如ク佐々木源太常世ト云一族ノ所領ト相違ナキ人ナリ かくの如ク沖ノ棹ノ本ヲ伐シ時ハ乱出ルナレバ ちぎれたる笠ヲ着 ちぎれたる長刀ヲ杖ヲ痩タル馬ニ乗テ

一番ニ馳参ジ高名ヲ為ル如ク沖ノ棹ノ本ヲ伐リ出ル如ク

最明寺殿ト云ハ常世ヲ力ヲ付ク彼ノ本領佐野ノ庄七百餘町本ノ如ク返シ与ヘラレ秘蔵ノ沖ノ棹ノ本ヲ伐リ出ル棹ヲ寒ト清ク其ノ時ノ沖ノ棹ハ梅桜松ナリ其ノ通報ヲ聞テ賀シテ梅田殿中ヨリ桜井上野ヨリ松枝三ケノ庄領ヲ賜ル自筆ノ状宝蔵ニ納ル与ヘ給ヒ

西園寺公経　坊城内府実宗ノ男太政大臣従一位寛元二年薨ス

早良親王　光仁天皇第二の皇子なり天應元年四月
朔日帝兄の山部親王を超て太子を立たまふ今
年蒙古來らんとす風聞あり〻〻早良太子を大
將として筑紫へ向ふ同年五月朔日帝出陣の處に
大風吹き逆浪起りて異賊の船悉く漂没す
是より前太子勝利を藤の森の社に祈りたまふ此
因縁を以て首の神幸の時神人等甲冑弓
箭を帶し馬に乘て是を異国降伏と表す
今諸国の菖蒲冑八當社の祭礼に

始しと云○按ずるに早良親王帝兄山部親王を超て太
子たまふことを云説ハ悉く日本紀に天應元年山部
親王即位まします是桓武天皇也其後帝弟早
良親王を太子たまふ又天應元年に蒙古來
支正史實録に載て見たり是文永弘安年中蒙古
襲來事を誤り傳へのこ

西武　山本氏齋外軒と号す負門七俳仙の内に延宝年
中没す歳七十三

西鶴　井原氏二万翁と号す一日に二万句を吐く俳林の

故に三万翁と呼ぶ。宗因門人にして元禄年中没す。

西吟　西鶴門人にして摂列の能楽なり。

里村昌叱　京の人。紹巴同村の連歌師。父を昌休と云。宗匠なり。

牧門人にして孫今に至て宗匠なり。

左文字　建武の頃筑前国の刀工名人。姓は源。名は左。

佐國　佐國我が国の大江佐國の末裔。大江系圖に佐國朝綱の曾孫と。又東見記に云佐國は播磨国諸越の産。今佐國村と号す。佐国天性花を愛せり。其賦する所の詩多く花を賞せり。晩年の吟に曰、

六十餘回看不足他生定作愛花人

然れども諸越を唐土に取り憑へ異邦の人と誤り来れり。

二人静の謡に曰、

佐国は花に身を捨てしを見て唐土の人と思へり。此の外謡に有る処事實と誤る事

なども多し。

澤一齋　名は重淵。字は文拱。風月庵と称す。京の書林

儒名あり。

澤村琴所　名は維顕。字は伯揚。與三郎と称す。儒家なり。

櫻井基佐　中務亟と称す。宗祇同村の連歌師なり。

神原玄輔　字ハ希翊。筐洲と号、翊恭門人紀州の儒家、
宝永三年没ス

相阿彌　名ハ真相、鑑岳松雪斎と号、香茶道を達ス

才麿　椎木氏、舊德翁と号ス、大坂の俳林、元文年中没ス歳
八十二、

定武　服部氏、能林し常矩門人、

木風　江戸の能林、

猿若勘三郎　歌舞妓芝居元祖、安宅丸と云所船入船の
時、金の麾を賜ひ、木遣音頭を取り、又京都ゆく
猿若の衣裳を着ハ、青地金入猿若の衣裳、
紫裾濃同所、御簾のあげまき笛賜ふ、

西行法師　俗名義清或ハ則清、又憲清とも云、憲清の
字を用ひ、藤原秀郷の苗裔、左兵衛尉季清孫、左
衛門尉康清の子也、母ハ監物源清経の女也、鳥羽院の下北
面左兵衛尉憲清、法名円位、大寶坊と号、後に改て西
行と号ス、文武の達人なりしが、俄に發心して出家し、諸
国を修行ス、或時鎌倉の將軍右大將頼朝の家に於て三
日三夜軍法を説くに、其恩射る銀の猫の香爐を賜ふ

[illegible]を撰び[illegible]無仏境より益なりとて門前の童よりせて
[illegible]まとりつゝ、○定家云、分の道を行るを事とすべしと
西行が詠に、[illegible]
行はまことの道の捨者とあはれ[illegible]

西行

の載集

[illegible]月やとあはれ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

月よ對[illegible]
[illegible]
[illegible]月やの[illegible]
[illegible]
[illegible]

世をぬけばあはれ[illegible]月よ歌[illegible]

具平親王

[illegible]
白樂天の詩よ、

莫對月明思往事損君顔色減君年

いづれも[illegible]の詩の[illegible]又神釋門(廿)の部西行の[illegible]

在山　名素瑞、東福流の僧、碩徳し、

象初　名八中文、東福流の僧、高徳し、享保二年寂ス

倉頡　黄帝ノ史官、生レナガラの神聖し、首ハ四目あり、仰テ奎星圓曲の勢イを觀、俯シテ亀文鳥迹の象を察シ、衆美を采合テ文字を制シ、以テ結縄の政ハ代ス、是文字の始リし、史記ニ見ユ。結縄の政ハ往古ハ文字なき云ものなく、縄を結ビテ文字の代リとして政事を行ひしとあり、その後倉頡文字を作りて結縄の事止メりとあり、

倉公　齊の太夫大倉長、姓ハ淳于、名ハ意、大后文帝ノ時の良醫し、史記ニ詳し、

巣父　堯ノ時隱逸、常ハ山居して樹を以テ巣を作り其中ニ寢ル、名を知ラザル者ノ時ノ人号して巣父と呼ぶ、又其頃許由とて一人ありて世俗のがれて山林ニ隱居ス、賢人なればとて堯王その德を信じて許由代を讓らんと勅使をつかはしけるに許由辞して清流ニ行けるに、巣父牛ニあらうんとて来りしが、是を聞て耳を洗ひ、肩ニ掛て去ル

ゆゑを問ふ、許由云ふ、汝の身を強ふるあれば、巣父、如何ぞ耳を洗ひし流れを飲んで、あがいまだ
よき牛を飼ふやとて、すでに牛牧宰に向ふ、

又(キ)の部、許由の如くあるべし、

散宜生　周の世の賢人なり、

宰我　名予、字子我、孔子の弟子、天性利口辯舌なり、
齊の田常を殺せり、

左丘明　春秋の傳を作る、今の左氏傳是なり、

左思　字太冲、晉の儒士、三都の賦を作る、思を構る事
十年、紙成る、家毎に写す、紙の價これがゆゑに
貴くなる、

左慈　三國の時、幻術の異人なり、

莊子　宋人、名周、字子休、漆園の吏と為る、孟子と時を
同じくす、其の学窺ひ知るべからず、天寶元年封南華眞
人と謚す、其の書寓言とのべ、一家をなせり、○諸侯なり、莊子
まのあたりに死骸をけがして云ふ、ト筮の道に用ひらる
亀八人是を尊敬するあり、其の身を殺さず、泥
中の亀八尾を泥に引きて死事なしと云ふ、

莊問生　澹庵と号す清の画家なり

蔡邕　字伯喈後漢の人なり博学能筆にして六經の文字を正定し大学門の外に碑板建て又飛白の書を作り永字八法を作れり後世筆法の大祖と称す崔瑗韋誕蔡琰等皆を学びて高名なり

蔡琰　字文姬蔡邕が女なり書を学び又よく琴声を知る衛夫人は此の門なり書名ある名なり

蔡倫　漢の世にはじめて紙を漉事をなす

蔡元定　字季通朱子の門人なり律呂新書を著す

蔡沈　字仲默元定の子なり九峯と号す朱子の門人なり書經を註す父子宋朝の儒家なり

蔡謨　字仲覚覚軒と号す朱子の語を集め續近思録を著す

蔡襄　字君謨宋の書家なり

蔡外元　字徵元清朝の書家なり

蔡鎮　字允邦一ツの字真金清朝の書家なり

蔡簡　字隆周馥雪齋と号す清の画家なり

蔡順　汝南の人字君仲幼少にして父母に事て孝なり

後漢の王莽天下を簒し兵乱つゞき飢饉しゝんバ母を喪
のゝゝ椹を拾て其ノ器を二ツもて實の熟しゝを
母ゝ与ゝ嘗ゝて己ガ食とゝ二十四孝の内の一人ゝ

曹子建　魏ノ武帝の三子七歩の才と称ス陳思王ゝゝ又㐅ノ
部ゝ出ス

曹攄　字ハ顔遠晋ノ儒ゝ経濟ノ用ひゝゝ

曹操　魏の曹操字ハ孟德梅山を越ル時士卒水ノ渴ルを
此の峯と縋ゆゝゝあゝゝ梅ノ林ゝゝゝゝ士卒の口中と
潤ゝゝゝゝゝゝゝゝ又㐅ノ部ゝ出ス

曹植　字ハ國華宋の書家ゝ

曹時中　初メ節定庵と号ス又ハ晩宜居士と改ム明の書家ゝ

曹學佺　字ハ能始明ノ儒ゝ五經の困字明ノ文選と著ス

曹振　名ハ玉字ハ二白清の画家ゝ

塞翁　馬を失ひゝ憂ゝ吉事ゝゝ見を諺ル塞
翁ガ馬ゝゝ人間万事善不必善悪不必悪之謂
也淮南子ノ瑞ゝゝゝゝゝゝ又㐅ノ部ゝ出ス

山濤　字ハ巨源晋の世の七賢ノ内博学ゝ

崔瑗　字ハ子玉漢の賢臣民慈仁父と仰ゝゝ書を蔡邕

学のび名あり

崔顥　下別の人唐の詩人し酒を嗜妻を娶るは美者を擇
　合ざれば即ち去る者三四人オあれども行る

崔國輔　吳郡人唐の詩人し

崔惠童　開元の時の人玄宗皇帝の女を妻とし盛唐の詩人し
　唐詩訓解小初唐の人とせるハ非し

崔敏童　惠童の從弟し盛唐の詩人し

崔魯　僖宗廣明進士唐の儒家し又詩を善し無機謀
　世を行はれ○無機謀ハ則ち崔魯が著所書の名し

崔寔　書を善し事實不詳

崔據　字道彦晉朝の儒家し

崔靖　字幼安晉の書家し

崔外　字聲山清朝の書家し

崔翁　前ふ出しれども再び字ハ淮南子云塞上の翁

あり馬を失ふ人皆之を回る翁云惡もの人
必ずしも惡のみにあらず此馬後駿馬を引きて帰る
人皆之を賀ぶ翁云善もの人必ずしも善
とのみ云ふ馬を乘て肘を折る人皆之を

[illegible]公羽の云、[illegible]人と一ツを胡
国大ふ乱仕奉の者[illegible]羽と死[illegible]ふ辟の
折[illegible]軍[illegible]命[illegible]事を[illegible]

宋人詩

人間萬事塞公羽馬推枕軒中聽雨眠

此の句の心ハ人間百事[illegible]
[illegible]
[illegible]

追加

齋宮の女御　[illegible]重明親王の御女微子
女王と申ハ村上帝の女御[illegible]
[illegible]神社の女御ハ齋宮と云ひ賀茂[illegible]齋院と称す

相摸　源頼光の女相摸、寺大江公資の妻、入道一ノ宮乃
女房、乙侍従と号す　[illegible]

讃岐　源三位頼政の女、二条院の女房、歌人

狭夜姫　狭手彦異國への使を蒙り出船の時、妻松浦
狭夜姫、夫の別を悲み肥前の国松浦の山に登り船を
[illegible]

キ之部

きうの箱　塞翁が事く註ハ前の塞翁所ニ出ス

きうちう人　八幡殿ニ陽中人と云又法華ノ事

（後撰集）今はとて私そそぐれ

きみとん人　君臣ノ臣のことをひとと読むし

きそかく海士　きそとは貝を海士のうきをしてゐる

きそとは貝ニ似たるあり一説ニ蛤の事ともいへり

きそとは海の汐なのうらに延喜神ノ御けきる

きらく者　端正者と書て正人と読て

きせいの大とこ　碁聖の大徳として肥前の国筑後の

郡大村の人ニ出家ス寛蓮と号ス亭子院殿上の

法師ニ亭子ノ法皇ニ御供して

うちの西殿ニ作りて碁ノ上手ありふるして

碁聖と呼ぶことハ大徳延喜十三年五月

五日碁聖勅をうけて碁式を作れり又弘仁門

㊀ノ部ニ出ス

木のそもしたこと　番匠のまく大工の棟梁と云て

き祢　巫女とゝ〳〵かんなぎの事、奥義抄よりくくり、
太平記よ、宣祢とゝ〳〵、
きこり　樵夫とゝ〳〵山より入〳〵薪を取る者をゝ、又〻蕘ノ
字をキコリと訓ス匂會よ、刈草曰匂、采薪曰蕘とゝ
吉備大臣　下道ノ國勝ノ男、名眞備、靈亀二年入唐〳〵經史を
博覽〳〵軍術衆藝悉く傳〳〵歸朝、正六位下より右大
臣正二位に至り、寶亀六年十月薨、歳八十三、今片假字と
云ものは大臣の作しとぞ、
魚養　忍海原連首麻呂後胤、外從五位下、播磨大目典、
藥頭、能書し、延暦十年正月上奏して姓を朝野と改、或
云、吉備大臣岐那に在て設る所の男、大魚に乗て日本に來る、
續日本紀、又〻宇治拾遺ものも見へたり、
紀納言　彈正忠貞範の男、中納記長谷雄、字、紀寛、詩文
高名し、其名世に畧して略す、
紀在昌　長谷雄の男、村上帝の朝、文人し、
紀淑望　長谷雄の男、詩文高名し、古今真名序ノ作者し、
紀貫之　孝元天皇ノ末、武内宿祢より十一代の苗裔、紀ノ本ノ
道孫、望行の男し、童名阿古久曾、帥書所の預り、延長

八年三月廿八日木工ノ頭ニ任ス同九年ニ卒ス古今撰者の
一人

古今集春

人もをしさくらもをしむ春の日の
ひぐらしの鳴くなかの山ぢ　紀ノ貫之

やどりしてはなちるかぜ
もらむしの香ゝ匂ひあるかな

公任　三条大政大臣頼忠ノ男四条大納言と称ス和漢ノ
才人ニ哥曲佳声あり釋ノ道命ガ音調を受ケ諷誦
好ク律呂ニ合フ故ニ朗詠を撰シ句節を附ス

公忠　大蔵卿國矩の男滋野井の家と称ス

清盛　桓武天王十二代の後裔備前守正四位刑部卿平ノ
忠盛ノ長男従一位太政大臣ニ任ス五十一歳ニ卒ス
法名平相國入道浄海と号ス無道放逸ニして民を苦
しめ奢侈ニ長ジ黄金若干斤を宋の天子ニ贈て
松蔭ニ立つる硯を求ノ得たり此ノ宝硯の奇妙ハ硯の海
水を貯れバ自然ニ水湧出ル松の蔭移れとも盛衰
記ニ見ヘタリ又図ノ部ニ出ス

祇園南海　姓ハ源祇園ハ氏名ハ正卿後ニ瑜と改ム字白玉

与一と称す紀州の人儒家にして書の高名なり

祇空　稲津氏敬雨と号す大坂の能楽なり

祇徳　江戸の能楽なり近来字道てなり

歸一法眼　俗に作鬼に兵学に長じ源の義経に秘書を授けたり

清輔　顕輔の男大皇大后宮大進正四位下藤原姓万葉集の古風を好む歌人なり

清田君錦　名綱僧叟又孔雀楼文奥と称す木下錦里門人にして越前の文学なり

木曾義仲　義賢の男伊豫守に任ず平家を追討して後栗津合戦に討死す

木下勝俊　若狭守天哉翁長嘯子と称す東山に隠居し慶安年中卒す寄名なり

木村永光　善了と号す江州浅井家の居臣と云元信の門人なり

木下錦里　名は貞幹字は直夫順庵と称す又茶靖と号平之允と称す松永昌三門人儒学高名なり

木瀬三之　作者屬と称す貞徳の友なり

木戸由已　名八元春、字ハ純仁、大坂の儒ニ、延享年中没ス

金宗和　金森宗和飛弾ノ守ニ侯ニ、茶事高名、又四ノ方ニ出ス

金玉仙　宮南と号ス、相州の人ニ、元信門人、画ニ名ス

北島雪山　名ハ三立、肥後の人、書画ニ名ア、四方ニ遊ブ

北村季吟　拾穂軒、呂庵と号ス、元貞室門ニ、後ニ貞徳門ニ入リ、和哥連俳ニ達ス、再昌院法印、神学の所の元祖ニ、門人多ク芭蕉ニ出ツ、長男を湖春と云ヒ、二男ヲ正立と云ヒ、孫を湖元と云フ、共ニ和哥連俳ニ名ア、

宝永二年ニ没ス、歳八十八

北村篤所　名可昌、伊勢の儒ニ、称ス仁齋門古学ニ家ル、

北向雲竹　八郎左衛門と称ス、書家ニ、能士ニ、桃青と友ニ

北原白山　三井親和門人、書家ニ、

清原元輔　後撰集の撰者ニ、梨壺の人の一人ニ、深養父の孫、顕忠の男ニ、永祖二年六月卒ス、又㊥の歌ニ出ス

吉良親實　左京ノ進と称ス、南村梅軒門人、肥州蓮池の城主、儒道高名ニ、天正年中卒ス

菊池南陽　名武慎、字伯修、子元と称ス、儒家ニ、

匡山　長秋と称ス、書法一流、

玖也　宮因門能楽、

其角　宝井氏、宝晋齋晋子と称、芭蕉門、曾て牛島に雨を祈り感を蒙り、宝永年中没、

夕ちるや田ごとの月の水すまば　其角

或人の云はく、白雨に多ちまきとりんその餐、なるべん雨を祈りたるなるべし、夕ちるは田とみるべし、

許六　森川氏、五老井と号す、能楽、

去来　向井氏、落柿舎と号す、能楽、

希因　北枝乙由と号す、加賀の能楽、

几圭　巴人の門、京師の能楽、

喜撰法師　或ハ基泉とも書、佐々木高秀、古今抄に云、喜撰ハ橘ノ諸兄の孫、奈良麿の子、醍醐法師也、十吟抄に云、光孝天皇の時、勅をうけたまはりて和歌式を作る、又沙彌門田の部に出、今世人、

行尊　三井寺圓満院ノ祖師、天台座主、三条院曾孫、小一条院ノ孫、参議基平の男、三井寺の平等院に住、保安四年延暦寺ノ座主に任ず、修験名徳の僧、又弥

釈門に納る処、金ならざるなし、

器之　名、爲璠、大隅の国人、大徳の僧、應仁年中寂す、

義南　徹翁族孫、元亨順宗菩薩の号を賜、大徳タリ

義堂　名、周信、夢窓國師の法嗣、詩偈を善、喜慶年寂す、

義天　名、玄詔、大徳流の宗徳、寛正年中寂す、

岐陽　名、方秀、南禅流の宗徳、應永年中寂す、

玉岡　名、如金、建仁寺圓肯の法嗣、宗徳、

玉畹　名、梵芳、宗伯、画を善、

玉浦　名、宗珉、諸山を歴迁、正徳年中寂す、宗徳、

玉堂　名、宗珀、童眠子と号す、春屋の法嗣、宗徳、寛永年中寂す、

玉舟　名、宗璠、春脩と号す、又善哉と称す、大徳寺の住侶、宗徳、書を善、寛文八年寂す、

起山　名、師振、東福流の宗徳、至徳二年寂す、

菊莊　名、有恒、東福流の宗徳、應永年中寂す、

琴江　名、令薫、東福流の宗徳、文安年中寂す、

九峯　名、以成、建仁流の宗徳、

龜年　名、禅瑜、妙心流の宗徳、天正年中寂す、

休翁　名ハ宗万、筑前ノ国崇福寺ニ大徳タル住ス、ス純孝
ニ、ナホ年中寂ス、

其巖　長崎ノ俗、書ヲ清人ニ学ビテ、ヨクス、

岐翁　名ハ紹禎、集雲庵ニ住ス、一休ノ弟子ニシテ、活達不羈
膂ニ力アリ、

耆域　耆域法師、天竺ヨリ還ラントセシ時、竺法行ト云者、耆
域ニ一言ヲ留ムル永キ誡ヲ、ムルニ、耆域曰、口ヲ以
守リ身ヲ摂、慎ブベシ、衆悪ヲ犯ス事ナカレ、一切善ヲ
修行セヨトノミ、竺法行聞テ、斯ノ如キ事ハ
八歳ノ童子ノモ、唱誦シテ、得道ノ人ノ、ムルトコロ
ナリ、ノミニ、ナラズ、耆域ノ、ヲシヘ、ハ、ヒトリ、ノ、ミ、ニ、ナラズ、
誦スレバ、百歳ノ人モ行ハザレバ、ヒトシ、ト、ス、
何ノ益アラン、ト云ヒシ、ト、ス、

玉磵　宋朝ノ人、西湖ノ浄慈寺ノ僧、瑩玉磵ト号ス、恵
崇ヲ師トシ、山水ヲ画ク、又詩ヲ、ヨク、

虚堂　名ハ智愚、径山寺ニ住ス、宗ノ高僧、

虚白　名ハ性願、百所ト号ス、明朝ノ高僧、

鞠多三蔵　天竺ノ人、律宗ノ祖シ、五人ノ才アル、律釋十巻

四分律六十巻を附し、支那に渡せり、

季潭　名は宗潤、明朝の僧にして碩徳なり、

徽宗皇帝　宋の神宗の子、姓は佶、宗の八世にして好んで花鳥玉石を愛し、圖画を工にし、又鷹を画くに妙なり、其性婬樂にして故に北狄の為に欺き擒にされ胡国に於て崩ず、壽五十四、

岐伯　黄帝の臣にして醫道に論じ、内経を作る、

鬼愈區　岐伯同時の人、醫道を論ず、

許由　字は仲武、堯帝召して九州の長とせんとせば

周に織られて耳を潁水に洗ひ、巣父牛を引て飲せんとせしに、事を聞て牛を引て上流に牽き去りぬ、又巣父の所より出で、其説は堯王を徳に信じて位を許由に讓らんとなり、○高士傳に云、許由箕山に隱れ常に手を以て水を捧て手を飲む、人一瓢を遺れ得て飲むの後樹に掛く、風吹て歴々として声を作せり、尚煩しとして遂に之を去れり、萬物の流轉する此事如しと、○列子に許由を云へる

[illegible]

人[illegible]或ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]と十八家用[illegible]

許渾　字、仲晦、丹陽ノ人、唐ノ詩人、丁卯集二巻を著ス

許洪　宋朝の官醫、和劑局方を増校ス

許白雲　名、謙、字、益之、元朝の儒、金仙山ノ人、

許魯齋　名、衡、元朝ノ人、道学ノ倡ヘ

許自宏　字、君如、山水花鳥の画ノ名人

許巨川　名、漢、山水の画ノ名人

許容　字、默公、清朝ノ人、書画ノ名人

牛樞暐　字、孝標、清朝の画家、

箕子　殷ノ紂王の庶兄、周ノ武王殷を亡シ、箕子ガ大賢を知て朝鮮ノ封ズ、書経の洪範ハ其ノ述ル處、

蘧伯玉　衛の賢大夫、

季文子　魯の賢大夫、

季里綺　商山ノ四皓の一人、漢の恵帝ノ佐ク、

季路　孔門十哲の内政事ハ冉有季路とあり、季路ハ子路が事なり、

季孫　魯國季孫氏と云者、天子となんとうちめしく政道をほしひまゝにせしが魯国の陪臣なる顓臾と云国を討んとせるを孔子聞きめして季氏が如く家臣をもつて臣下の中より乱がおこるべしとて季孫憂蕭墻の下と云んとのるまゝ蕭墻とハ外門と内門との間なる墻し必竟ハ季の孫が蕭墻乱がおこるべしと云ふ是元とたとるのなり、

魏ノ曹操　字孟德、三國並び天下を爭ひ卒して武帝と謚ス

魏收　字ハ伯起、北齊門の儒し卒して文貞と謚ス

魏徵　字ハ玄成、魏州曲城人、文中子ノ門人し、初唐の大臣、博学廣才なり詩を善し至忠の人貞觀十七年薨ス帝臨哭してこれがために朝を罷ム五日司空を贈ス

魏雲端　字ハ祥卿、元の書家し、

魏時應　字ハ澹明、万暦年中、性理の学高名し、

嫪毐　虬改ノ二音。姓劉、名伯莊、秦ノ人、長信侯ニ封ら

秦の始皇の母と淫座して誅せらる故に支那の俗士の行と無き者とをゝぐ嫪毐と云史記の嫪毐傳に詳し○俗説に云嫪毐宮刑にあひて陰を断たれと偽りて髭を刺り宮室に出入りして勤とをのゝ或る時酒宴に乗じ陰を顕ノ宴舞と秦の始皇の母と見て淫すとして

紀信　漢ノ高祖の忠臣と冠服を賜り危急を救ふ楚軍を欺き命を亡ふ

丘遲　字は希範齊の時八歳にして文を属し儒名を成す

丘爲　嘉興人唐ノ世継母に事て孝く常に霊芝堂下に生ス

年八十餘にして其ノ母恙なく集ふて世に行ふ

丘瓊山　名濬字は源仲明朝の儒家

琴高　趙人善く琴を鼓し仙術を修て涿水に

鯉に駕して行く

休穆　号は文深く心を入て冠の為ことを勧ずしと

金仁山　名は履祥字は吉甫宋ノ末隠居して仕へず通鑑

前編を著ス

金德謙　元朝の画家

金潤夫　名は璧元朝の画家

金質夫　潤夫の事なり画家なり

金寧仲　名坤、花鳥の画を善くす

金啓明　字震旭、書を善くす

姜清叟　元朝の画家なり

姜立德　字延憲、東谿と号す、明朝の書家なり

姜師周　字周臣、清の画家なり

姜詩　後漢の時の人、母の事に孝あり、其妻龐氏も亦姑の意に順ひ命に逆ふ事なし、井の水湧き出て江の魚に異なるべし、山にして蹟ひ江にして魚を得る事を好めり、俗に姜詩が家近しと

清者江に入りて日々に至り活きたるを得て後舎の側に清水湧き出て其味江の魚に異なるべし、山にして朝夕供養の労を助けしとなり、世孝子の一人なり

龔居中　字應圓、明朝の儒家なり

龔廷賢　字子才、雲林と号す、仁孝衆に超え、明の高醫なり

龔允讓　字真讓、雲嶺と号す、書の高名なり

龔紫興　字翊宸、桂嵒と号す、書の名あり

龔季肅　字恪辟、清の書家なり

龔封祝　字培辟、清の書家なり

邱定元　字ハ永泰、書ヲ善ク、

邱永昭　字ハ宜齋、書ヲ善ク、

仇英　字ハ實夫、十洲ト号ス、明朝の画家ク、

仇兆鰲　字ハ滄桂、清朝ノ人、書ヲ善ク、

綦毋潛　字ハ季通、荆南ノ人、唐ノ詩人ク、

耆婆　天竺ノ人ニシテ釋尊時代の名醫ク、又云天竺ノ影堅王ノ子、善見ノ庶兄ニシ、生ル時一手ニ藥嚢ヲ把リ一手ニ針ノ筒ヲ把ルトテ、經律異相ニ觀經疏ニ見ヘタリ、

追加

鬼神太夫　豊後ノ国ノ力士ク、姓ハ紀、名ハ行平、親ヲ孝ヲ称ス鬼神來現シテ其ノ槌ヲ助ク故ニ世俗呼テ斯ノ如ク、

祇園女御　鳥羽ノ帝の御時白河ノ院の后ク、帝胤ヲ妊ミシヲ平忠盛ニ賜ヒ給ヒ生ル処ノ清盛ヲ則チ忠盛ノ嗣子トシテ盛衰記ニ見ヘタリ、

儀同三司ノ母　高二位成忠の女ク、中ノ関白道隆の室、儀同三司伊周の母シ高内侍ノ事シ歌ク、

紀伊　祐子内親王は後朱雀院の四皇女、母は中宮嬉子
敦康親王の女、紀伊は葛原親王より八代の孫、範國の
孫、従五位下經方の女、一宮紀伊と称す、紀伊守重經の
妹なり、世俗これを紀伊と訓ずるはあしき、祐
子内親王家の紀伊と讀むべし、されども舊くよりの
習ひなれば改めがたきもの歟、必ずしもそ
うるなきにあらず、ずでに金葉集に堀河院の艶書
合なる中に一宮紀伊とあり、又紀伊の国を紀伊とも
唱へ来りしなり、

桐壺更衣　按察使大納言の女、源氏の母なり、
祇王祇女　清盛寵愛の妾、二人の名なり、後に寵
衰へ、ここにて一首の今様あり、
[illegible]
北島撿校　近世箏曲の高手なり、

工之部

ゆうしょうの人　陪從　伶人の属、一説に神楽調の
人くさに育つ、又ゆうしょうの人とも、
「つづくゆうしょうの人」の意なるべし、

とゆのこのごとくなり

ゆみ　弓箭の事なり　ゆめ　さすみの事なり

ゆみとり　弓執と云へり武士なり又本朝の俗大将なり

さて弓執とは弓ハ器の首し故小武事を云者首なり

弓矢と云武備志なり

ゆめとき　占夢者と云へり　夢の吉凶を占ひ釈し

ゆひ　雇人と云し雇ひ賃を出す

行平　姓ハ在原平城帝ノ孫阿保親王の御子なり母伊登

内親王桓武帝の御女　元慶六年正月中納言ニ任ス

秀才歌人し文徳帝の御時罪ありて摂津国須磨へ

左遷ス後ノ勅免あり寛平五年薨ス。俗伝ニ須磨ハ

古歌の時松風村雨と云ふ二人の蜑人ハ蜑をさそ

しと云事を云ひ伝ひ蜑人ハ云ふ所の女ハ

海ノ藻ヒ回ノ部書風の如ク云ふ人なり

又或ハ伝ニ行平須磨ニ流されの時ハ淡路島の浦

かたぎと云蜑人の中ふんのそこ者なる物ゆへ

何ものゝ住ひ人ともしれぬ者なり

ものゝ事ハ世代をへ伝へ何のよりどころもなけれ

と称せられぬ。中納言いとゞかゝるべき
あるべきなりとぞ人
行家（ユキイエ） 為義の十男、十郎義盛と称す。古宝の達人なり。
百合稚（ユリワカ） 上州横川の岩石より出でたる。妙義社あり。
弓削道鏡（ユゲノダウキヤウ） 河州丹比郡人。孝謙女帝の嬖臣（ヘキシン）寵幸（トウコウ）
餘り大政大臣禪師を授け法王とす。天皇崩ずの後、野
列に放ち藥師寺の別當とす。死せるに庶人を以て葬る。
湯淺黨（ユアサジヤウガ） 名八元禎、字之祥。紀州湯淺と称す。紀州戸山戸の

儒伯
湯山基澄（ユヤマモトスミ） 近湯流の書法一家。
湯蓮（ユレン） 湯淺の人。住僧なり。
俞鎮（ユチン） 字八伯負。元の書家。
俞伯澄（ユハクチヤウ） 元朝の画家。
俞齡（ユレイ） 字八大年。清朝の画家。
度黔婁（ドキンル） 南齊の時の人。出仕（イデ）ず。扇陵（センリヤウ）先生と称す。
父の病重く命の危かるを聞きて醫を迎へて生死を
問ふに糞を嘗めんと思へば糞甘く味苦くば病愈（イユ）べし

井手の金屋うしろにてうつる即ち是を書て見せらるる

古今著聞集

追加

雪姫　狩野氏政が女、画の妙を得たり、

湯谷　月次屏風の龍、是の図人湯谷御前と称す

夕顔上　玉蔓の母、源氏の妻うしなひの処

夕桐　源氏の妻、女三の内侍、実は柏木右衛門督が

子なり、妻事は玉蔓に初見

メ之部

めならぶ人　月並人、月ごとに会あり、

むらさき見るのぶ人ならぶ

やまのあを花ならぶ

美濃ぬるばかりなりよせて

古今集　春ごとに花のさかりあれば

めざし　女の言葉、又幾のいざうなる義

めざしらず

古今集　ことろぎの磯もとどろに打もとる

波の音

[illegible]

兄のと　姆　[illegible]

[illegible]

めれや　女親　母親　源氏　[illegible]

甍受重政　尾州春日部郡人　勝助と称す　[illegible]

[illegible]主君の為に死す

明濤定考　字子信　篠田行健の男　[illegible]

一流と云ふ

妙旨　若州小濱の人　老母に仕へ孝行　書法よろし

[illegible]

[illegible]換に書を以て供養をなすといへり

面山　碩徳の禅僧

明道先生　姓程名顥　字伯淳　宋の大儒　書をよく

伊川先生　[illegible]傷及び書のよろし

三之部

御息所　東宮の嫡妻をいふ

御臺所　御臺盤所とも同じ　大將の妻をいふ

御匣殿　[illegible]常寧殿の北　貞觀殿の中なる呉服裁縫をつかさどる所　掌上膳をさいふ

こもゆ[ビト]　旅人といふ。行旅、行客、旅客、いづれも同じ。

みなしご　孤と云、少なくして父なき者をみなしごと云。

みどりこ　嬰子、孩子、孩兒、若子、赤子、いづれも同じ。小兒の事なり。

こだちの林　緑林とて山の名。盗人、海賊をもいふ。

なみと云、白波と云。うつくしぬるを人とす。緑林白波の夏ハ共に後漢書に出たり。○孝霊帝中元元年鉅鹿の人、張角、自黄天と稱して其部師三十六萬皆黄巾を著て同日に反叛す。是を黄巾の賊と云。同き五年其餘黨郭大等西河の白波谷に起る。大原河東に寇。是を白波賊と云。又劉玄が傳に王莽が末に南方饑饉、新市人王匡王鳳人庚を聚て緑林の中に藏て濫妨狼藉、別郡制を変ずる。○緑林ハ山の名。荆州の當陽縣東北に在り。白波ハ谷の名。○俗、白波を海賊とし、緑林を山賊とするハ文字の縁なり。後世和漢ともに緑林白波を山賊海賊の名とするなり。

こだちめ　厨女と云。水仕女。

こだちのこ　自と云。己し。親しき書。

源順　左馬允挙の男、後撰集を撰、又、和名集を著す、
和漢の才人なり、歌道のみも高名なり、
源齊頼　金吾忠隆の男、後冷泉帝の朝、出羽の國司なり、
養の達人なり、
道雅　内大臣伊周の男、母大納言源の重光の女、三位中將左
京大夫なり、天喜二年七月卒す、
道信　恒徳為光の四男、母は謙徳公の女、藤原姓、左中將道
兼の養子、拾中納言なり、正暦五年卒す、
道綱母、右衛門佐倫寧の女、母は山城守恒基の女、

東三条入道兼家の室、大納言道綱の母なり、
三善清行　参議宰相善相の孫、詩文高名なり、
壬生忠峯　府生木工允忠衡の男、作者部類に従五以
下安綱子とあり、和泉大將定国随身、古今集撰、
者の内の一人なり、⊗の部に出す、
壬生忠見　本の名は忠實、後に忠見と改、忠峯の男、天徳
二年摂津の大目に任ず、なり、又⊗の部に出す、
三浦大助　義明と称、頼朝義公と郎党の初、味
方して討死、歳百餘、

三浦瓶山　名八衛奥、字八淳夫、武蔵と称、儒家、

三宅万年　名八正名、字ハ石庵、浪華ニ住、儒学高名、

三宅觀瀾　名八緝明、字ハ用晦、瑞山と号し、水戸藩、

稱ス、万年の弟ニ、水府公ニ仕ヘ、儒名あり、

三宅寄齋　名、島、字ハ亡羊、慶安年中没ス、儒家、

三宅道乙　寄齋の子ニ、字ハ子燕、父子共ニ京ノ儒家、

三宅正賢　字ハ子柔、澹庵と号ス、堀正意門人、越後侯の

文学、

三宅尚齋　名八重周、丹治と称ス、闇齋門の儒家、

三谷宗鎮　南川子不編齋と号ス、丹下と称ス、藝州侯の儒

医ニ、

三輪執齋　名、希賢、專ラ良知の学を唱ヘ、

三雲宗伯　後金宗養子、醫家ニ、施藥院を主ル、

三井親和　字ハ孺卿、龍湖と号ス、孫を傷と称ス、廣澤ノ

門人、江戸深川ニ住ス、故ニ深川親和と云、篆書ハ

羅設ニ、甚ダ親齋、相似テ、書家ニ、

三千風　大淀氏、寓言堂と号ス、紀州の人、師伝なく、能ク

一家ヲ成ス、延宝年中の人ニ、

躬恒　凡河内姓く行氏ノ孫、諶利ノ男、甲斐ノ小目従八
位下ニ叙シ、古今集撰者ノ内の人、
都在中　都ノ良香ノ男、詩文高名、
水無瀬氏成　従二位権中納言ニ叙シ、寛永年中逝ス
水尾民部　西池甲斐守門人、書家、
水口隼人　櫟壽堂と号ス、京人、沸家の末流書家、
水足屏山　名ハ斯立、平ヲ進と称ス、甚男、業元、字安方、
博泉と号ス、平ヲ進と称ス、父子共ニ肥後侯の儒官、
御園中渠　字ハ原尹、玄蕃と称ス、画家、

溝口千谷　名ハ成、従、字ハ子誠、定右と称ス、尾の人、沸家流
出書法一家ヲ成ス、
溝我柳江　摸列の書家、
宮崎筠圃　名ハ奇、字ハ士常、左ヲ進と称ス、京の人、墨画の
行ヲ善ク画家、
宮尾道三　謡曲及ビ茶事ニ善ク、又書画ニ善ク、女名
利休が書ス、
宮瀬龍門　名ハ維翰、字ハ文翼、三左衛門と称ス、儒官、
宮田金峯　名ハ明、字ハ子亮、宇右衛門と称ス、儒官、

皆川淇園　名愿、字伯恭、原姓と稱す、京の儒家なり、

光信　廣周の男、兄より代々古佐を任ず、佐を氏の如くす、明和年中の画家なり、

光茂　光信の男、女狩野古法眼の妻なり、

光益　光信齋し画家なり、

光忠　刑部左衛門左佐の嗣、画家なり、

光特　前に同じく画家なり、

光高　將監と号す、左佐の家の後、画家なり、

光継　左佐家の門人、画家なり、

光起　前に同じく画家なり、

光芳　左佐氏、京師絵所の称、昔左佐氏光信の画齋なりしを未得、

未得　石田氏貞門の俳諧なり、

未琢　未得の子、俳諧又狂歌をよくす、

明慧　紀州の人、明慧上人と号す、日本に生る、又神釈門

（三）部に入る、

明安　名齊哲、文保年中元に入り、後に京の真如堂に任ず、

その他の伝なし、

明中　名、鑑、混然と号、元朝の高僧し、
明極　名ハ楚俊、元朝の僧し元康年中日本ヘ歸化し
南禪寺ヘ住ス延元元年寂ス佛日慧禪師と謚ス
眉間尺　楚国人、父干將、母莫邪、名ハ赤鼻、眉間
濶一尺、故ヘ斯名ノ列士傳ヘ見ヘシ
追加
宮川尼　狂歌のヘ名ヘし、

㋑之部

志べ　ふるひ人　老人のことを云、紫賣人ともとゝ逝し。
源氏物語に「こゝのもかのもあやしき志べ
ゝ人あつまりゐて」と註ヘ老人と云ことあり、
志めの用人　社事をつゝさどる人とゝらめし、
志れもの　本朝文粹ヘ白物ヘ志れものと
刺ヘ「万葉集ヘ愚人ヘ志れもの」と
ゝ儀ヘ白癡ヘ志れ人ヘ志れもの」と
噂者ヘ志れ物ヘ左傳ヘ見ヘシ又、
志れもの　はゝれもの剛ヘ志れ物ヘ兵家ヘ志れ物

つまりの中で第一の白物白癡とハ異なりとぞ曰し
されば混じみえし

志らま姫 霊をうけて人倫にあらざれども
その名は開りし家に如ス 訓方註ハ乾坤門にあり

志らなみ 盗人の事也 山にて賊を緑林(ミドリノハヤシ)と云ひ海にて
賊を白波(シラナミ)と云ふ 文三ノ部 緑の林の如く池ス鴨(カモノ)あるが
海の池に「見る様にて浪をたてよせて山を通る
世に緑林の人々と志らざるよし中世にて見えたり
とも知れ

志やうすよ人の風をそふきてよみ林のげにかしましき事 長明

志らねさん 執念(シフネキヒト)人と云ふに志んでうらむ人を今云志ぼ
とらへて

志ほ志みぬる人 何事も少しもあきらめず心を深く志ほとハ
一入(ヒトシホ)二入の如し 染の事にて色に並ぶ也 源氏物語に
見ゆ

白拍子(シラビヤウシ) 俗説に我朝にて白拍子始りたる事ハ鳥羽
院の御宇に島ノ千載(センザイ)若(ワカ)ノ前(マエ)といふ二人が舞ひ出したる
昔ハ水干(スイカン)に立烏帽子白鞘巻(シラサヤマキ)をさして

[illegible]男[illegible]と中ひろう鳥
帽子刀をのけられて水干ぞろへ用ひられ
白拍子[illegible]名[illegible]ひとり
志のびづま　[illegible]の書しかた妻のこと
志がのてごら　近江の国の志賀を作る女とて
けらあのこなるすぐて女とてごらとて
拾遺集　さ[illegible]志賀のてごらぶまのうまの[illegible]
志川　聴[illegible]きなる者とて[illegible]
女なること

志ぼち　彰意[illegible]初めて出家して[illegible]
[illegible]氏[illegible]僧の幼稚なるを
彰ぐちこと

神武天皇　人皇第一代御諱ハ神日本磐余彦尊と申
奉天照太神より五代鸕鷀草葺不合尊の第四乃
御子に御母ハ玉依姫龍神の乙女也初め日向の国に
舟軍を起し王威を[illegible]夷を平ケ初て大和
国に至りてなるとて彦を誅罰し和州畝傍山を開き
内裏を建辛酉元年春正月即位あり御年五十三

在位七十六年丙子三月十一日崩御ス御壽百二十七ヶ帝
ヨリ三十六代迄千二百七年ノ間年号無シ三十七代孝德
帝ヨリ年号始ル大化元年也天皇大和ノ国ヨリ都ヲ移シ
大和ヲ以テ是ヲ天下小蒙ラシム皇輿ヲトメグリテ
国ノ象ヲ望ミ給フ其カヽモ蜻蛉ヨ似タリ因テ
秋津洲ト名ヅケ給フ秋津ハ蜻蛉ノ和名ニ大和国ハ
上古日神降臨ノ地ニ故ニ大日本豊秋津洲ト云ヘリ
又日本ヲ以テ天下ノ号トセリ
神功皇后　息長宿禰ノ女仲哀天皇ノ后人皇十五代ノ
女帝ニ用化天皇ノ曾孫ニ新羅百濟高麗ノ三韓ヲ從ヘ
タル事ハ日本王代一覽ニ詳ク
順德院　後鳥羽院第二ノ皇子御母ハ修明門院藤ノ重
子贈左大臣範季ノ女御譚ハ守成在位十一年兼久
三年七月九日関東ノ沙汰ニ依テ佐渡ノ国ニ移シ奉ル
仁治三年九月十日佐渡国ニ於テ崩御歳四十六
哥人ニシ
崇德院　鳥羽院第一ノ皇子御母待賢門院ノ障子
大納言公實ノ女御譚ハ顕仁在位十八年保元元年

七月十二日仁和寺ニ於テ出家ス同廿三日讃岐ノ国ニ移坐
長寛二年八月廿六日配所ニ於テ崩ス御歳四十六崇徳
院と追号ス歌人ニ
式子内親王　後白河院第三ノ皇女御母従三位成子大
納言季成卿ノ女加茂の齋院ニ卜定ス准后ニ宣下ス
萱齋院と号ス哥人ニ
七条后宮　守多帝の皇后温子ニ同ク
志貴皇子　施基ト作ル天智帝ノ皇子田原天皇ト称ス
哥人ニ天智ノ部ニ出ス

聖徳太子　用明帝の皇子厩戸ノ太子と号ス別名五ツ有リ
上宮太子八耳太子豊聰太子耳聰太子聖徳太子ト
佛法を信シ四天王寺其外伽藍を建テ御年
四十九ニ薨ス
神祖　姓源氏諱家康公大炊ノ助新田義重裔
孫德河四郎源ノ義季ノ十六代源ノ廣忠ノ長男從一
位右大臣征夷大將軍淳和特學兩院別當源氏長
者東照大權現宮と號ス贈正一位大政大臣元和二年
四月十七日薨ス御歳七十五御小名竹千代德河二郎三郎

と称す天文十一年壬寅十二月廿六日参河の国岡崎の城中に
誕生
新羅三郎　八幡太郎義家の弟義氏と称す武勇の良将
甲斐源氏の祖
時平大臣　昭宣公基経の男本院左大臣と称す延喜朝
菅公の昇進を猜妹の皇后より計合せ讒ことあるに
菅丞相を無実の罪よりとし時延喜帝十七歳未
若年小まるやはり其説言を實とし終に筑紫へ流
罪せらるる

俊成　中納言俊忠の男皇太后宮太夫正三位法名釋
阿歌道の達人にて定家卿の父也
重之　清和源氏貞元親王の孫従五以下兼信の男兼
信の兄参議兼忠の養子となる歌人
重盛　平相國清盛の長男小松の三位賢明の君子に
世に昇る
重衡　平相國清盛の五男正三位左中將
重忠　右大將頼朝の高臣秩父氏智仁勇兼備の
賢者

滋藤　清原姓、前ノ右少辨、四融帝の朝の人、詩ヲよくす

滋野井季吉　従六位ノ下、近衛殿ゟ出、一家ニ成

兼應年中逝ス

清水谷實業　従六位ノ下、宝永年中逝ス

清水ノ冠者　本名義仲、頼朝卿ゟ養て大

將ト聚ス、後疑しく古ま人殺ス

清水道閑　京ノ産ノ人、世ゝ風流の人ニ称せり

清水嘉英　字、子發、嘉ノ傍ノ称ス、儒家

渋谷ノ金王丸　入道して土佐正俊と称ス、義経堀河の

御所ノ夜討ニ向ひ討死ス

浴川春海　周斎ノ人、又ハ保井算哲と称ス、天文暦数ニ

達し、日本貞享暦を作り、献ス、今ノ日官浴川家ハ

此ノ末ノ本邦ノ古ノ一人ニ成

白井宗因　白雲山人と号ス、大坂の儒醫

下冷泉政爲　従六位ノ下、暁覚、大永年中逝ス、父ハ

持爲、子ハ爲孝、父祖代ゝ歌ノ人

下河邊長流　和歌字田の人、長流と称ス、大坂ニて隠栖

の人し、貞享年中没ス

下津春抱子　大坂の儒家なり、李吟門の俳人なり、

神叔　青木氏、神道家なり、李伸画の高名なり、

芝法眼　慶春と称す、文孫弟伸画の高名なり、

柴田勝家　修理と称す、後修理亮と改む、織田氣の老臣なり、

志津ヶ嶽の合戦羽柴家滅さる、軍中に水瓶を手割て味方に勝しと云事あり、太閤記に詳なり、

秀文　明人なり、日本帰化し、曾我氏を嗣ぎ、飛彈の国に住す、

曼鳥の筆意を宗として画の一流を立つ、世に人秀文と云て、

秀石　長崎の人、画を清人に学ひ、高名なり、

蛇足　曾我氏、式部入道、法名夫泉宗文、画法周文に出、一家を成す、初は越前朝倉家の臣なり、筆墨神妙脱俗と称す、宗文、紹仙、宗誉と代々画法を相続す、

昌運　芝氏、物部氏、永真門人なり、画家なり、

常慶　永叔門の画家なり、

春湖　春笑門の画家なり、

心海　永徳門の画家、法橋、

心叟　花鳥の墨画を善くす、

諸葛監　字八子文、靜齋と号す、江戸の人、画法一家、

諸九　筑前の国の尼にて湖白庵と称す、能林と

舜水　姓八朱、名之瑜、字八魯璵、明人にて崎陽に客たり

水府公迎へて師とし給へり

似雲　實陰門の高人

似春　小西氏、総別行徳の社職、始め李吟門人なり

能道　高尼

似船　富尾氏、安静門人、能林と

如寄　穂屋翁家義と称す、明人、日本に帰化、雪舟門

学び画法を授く

周阿　連哥の達人

周桂　連歌の達人、紹巴の師にて専碩門人、宗祇の

頃の高名

侍公　慶安の比、普光園殿下宗匠の号をあひ一連

歌の達人、是宗匠と称せらるの始めなり

二樂軒　名八雅康、法名宗世、元名舟、家の度流和歌

及び書、世号す

松堅　高野氏、尼柯居士と号す、初名正由、能林に享保

年中没ス

信徳　伊賀氏、梨枝園と号ス、梅盛門の能楽、元禄年中没ス

舎羅　大坂の人、芭蕉翁同時の能楽、

支考　獅子庵、東花、西花、の別称あり、初め僧にして後帰俗し、能楽に入る、

倭文　尾の人、和谷文辞に工なり、奇古にして、賀茂真渕門人、倭文と云ふ、倭文と称す、宝暦年中没ス

志野宗信　三都に出て、京の人、香道の宗匠、又茶事にも長じ、平家男宗温、名は祐憲、参雨斎と号ス、法名を称ス、父に同じく香を茶事に言名、

志野道耳　香を茶事に言名、珠玉の真の宝の如く、

志津磨　佐々木氏、筆を一家、又ハ歌にも、

志道軒　近世街小辯口を衒ひ、古今の物語成

なせし者、

自笑　京に在て、信書を作り、名を知る、文字の成

と

[illegible]

自休　源氏学者なり抗侠を好み江戸吉原の娼門に接し侈靡の意休と云ふ

自墮落先生　名楨字浚明不量軒無思庵又捨樂斎

或ハ確蓮坊とも号す俳諧山海三昧蕉翁に従ひ俳諧を結ぶ

遠ハ翁の深く芭蕉風の俳を好むより自墮落

先生と号す元文年中没す武州谷中養福寺に石碑あり

晋其角　武州江戸の産に醫家に生て醫術を学ぶ俳諧

俳諧を業とし寶井氏狂而堂と号す芭蕉門の一人なり

後に己れが一風を起す俳書數篇を著す又(手)ノ部ノ部ノ部ノ記

秋色　其角門女字面に元小網町菓子屋の女兒於秋

と云て十三歳の時紀氏に出て東叡山清水堂の後

井の傍に住ける時吟ス

[illegible]

と吟じ[illegible]

秋の夜人に膾炙ス故に後世秋色

秋の字面と云て俳諧の門人多し

女の字面と云て俳諧の門人多し

静　白梅子義経の妾と云て禅師前と称せ[illegible]

一流を[illegible]又和歌[illegible]芳野[illegible]
時乃[illegible]

[illegible]
[illegible]氏ノ女臭蘭[illegible]女兒十四歳[illegible]静ゞ
詩[illegible]作[illegible]

原此楚囚京洛人紅粉舞態媚於春
新聲擬得相思夫戀能使覇君感懷頻

准三后道澄　照高院門主。関白植家の男。中家より出。書
法一家[illegible]

寂室　名元光。徳俊の法嗣。貞治年中寂ス

心教　十住心院住侶。侍公門。連歌の達人。文明
年中寂ス

心越　名興儔。東皐と号ス。明の僧。寛永年中日本ニ
歸化して水府ニ在り。書画の高名。

心兵　名通知。東福流の高徳。延永年中寂ス

證空　浄土西山流の祖。雅定の男。源空の弟子。一流の
白木念佛を以て勸化。宝治元年十月廿五日寂ス

慈稔　建仁寺大統庵ニ住。林羅山子。初の師。

慈雲居士　観音の像を画かせ給ふ

慈遍　博識碩徳の僧都なり

終南　名は浄壽高徳能筆の僧なり

春澤　名は永恩建仁流の法徳天正元年寂す

春蹙　天竜流の法徳なり

春浦　名は宗熙大徳流の法徳明暦四年寂す

春深　高野山西方院の僧書なり

紫笛　如雲舎と号す初め彩を称す後僧となる

本端の中なる物なり

正徹　紀姓字は清岩東福寺の書記なり招月庵と号す

山科に居せり京人なり長禄年中寂す徹書記と称す

松岳　名は宗繕妙心流の法徳なり尾州陽泉寺住す

信叔　名は紹允妙心流の法徳なり濃州陽竜寺住す

信海　名は孝雄玉雲翁豊蔵房と称す松花堂の高弟

書紙屋なり又和尚なり

叔方　名は周仲丹州の人建仁流の法徳永享四年寂す

子才　名は清隣建仁流の大徳文明年中寂す

子建西堂　松屋老人と号す　相模ノ国の僧なり画を善とす

實傳　名ハ宗真　大極流の僧なり　永正年中寂す

字堂　名ハ覚弘　薩州の人　宝福寺の開山　元亨九年寂す

俊惠　大納言經信ノ孫　俊頼朝臣の子　俊惠法師

と称す　明ノ長明が和尚の師なり

止泓　名ハ道鑑　天童ノ任　宋の僧なり

蓑翁　名ハ行盛　慧雲と号す　清の僧　書を善とす

秋遠　名ハ元逸　清の僧なり

青辨菩薩　天竺三輪旨の祖　経論を支那に渡せり

舎利弗　釋尊十大弟子の一人　智恵第一

須菩提　初の十大弟子の一人　解空第一

戍博迦尊者　十六羅漢の第九番目なり

神農　炎帝と称す　火德を以て天下を王ス　始て民に教

五穀を植ゑ　水土の滋味百草の甘苦を嘗て本

草を作る　支那醫藥の祖なり

蚩尤　神農氏の臣　兄弟八十一人有り　獸身人語　沙を啗ひ

石を呑み　暴虐度なし　黄帝師と發して大小涿鹿の

野に戦ふ　悉く伐亡ス　此ノ時指南車を作る　指南の字

こゝに出る人

商鞅　七國の時、秦に用ひられ井田を發し、賦を定む

商容　殷の世の賢臣なり

周の文王　姓姬、名昌、殷の西伯侯なり、聖人にして易を演、民帰伏し、天下三分の二をもつて殷に仕へ

周武王　文王の子、名發、殷の無道を伐ち民を救ひ天下を保つ八百年の基業を創む、聖人なり

周公旦　文王の子武王の弟、大聖人、宋の眞宗追て文建王に封ず廟を兖州に建て春秋に祭を致す

周勃　漢の高祖の功臣

周術　字元道、舟里先生と号す。回の部に出る

周瑜　字公瑾、三國の時、呉の丞相なり

周茂叔　名淳頤、濂溪と号す、性蓮華を愛し、君子華と称す、程子兄弟の師なり、宋の大儒なり

周伯琦　字伯温、玉雪坡真逸と号す、元の書家なり

周天球　字公瑕、幻海、又六止居士と号す、明の書家

周之冕　字服卿、訥庵少谷と号す、明の画家

周銘　字勒山、書を能

国立公文書館
National Archives of Japan

周壬祿　雲門又ハ溪園小山と号ス書と号ス

周鼎　字ハ有汾禹川と号ス書家ニ

周麟　完城と号ス書家ニ

周履靖　字ハ逸之梅顛道人又顧納と号ス明ノ書家ニ

又山水の画ヲよくス

周臣　字ハ舜卿東村と号ス明の画家ニ

周憲王　誠齋と号ス明の醫家ニ救荒本草著ス

周文萊　明の醫家ニ醫方選要方著ス

周恭　字ハ寅之明の醫家ニ醫說會編を著ス

周季之　清朝の人醫家ニ女科方論を著ス

周公　字ハ正思謙齋と号ス清の儒家ニ

周紹蓬　字ハ允相蘭齋と号ス清の書家ニ

周亮工　櫟園老人と号ス清の書家ニ

周度　字ハ思壬清の画家ニ

子貢　姓ハ端木名ハ賜孔門の高第十哲ノ内言語第一

魯衛ノ相ニシテ富ム千金を累ネシ人

子路　姓ハ仲名ハ由又季路とも云孔門の高第十哲ノ内

政事第一衛の蒯聵の乱ニ戮死ス孔子曾死然を得

まづ孔子事とと宣て其性常に勇武好みたまへり

子游　姓は言名偃孔門の高第十哲の内文学に第一し

子夏　姓は卜名商孔門の高第十哲の内文学に第一し

子張　姓は顓孫名師孔門の高弟才高く意廣し

子賤　姓は宓名不齊孔子の門人

子羔　姓は高名柴孔子の門人質直の人

子産　鄭の賢大夫慈惠なる人

司馬牛　名耕孔門に多言の人

司馬遷　十歳にして古文を誦す漢の大史令となり李陵を論じ罪に坐して後ち憤発して史記を修せ挙て良史と稱せり

司馬桓魋　宋の大臣孔子を害せんとせし人

司馬相如　字は長卿漢の時詩賦高名なり

司馬懿　字は仲達魏の元帥し晋の天下を引受

司馬彪　字は紹文唐の博士續漢書を著す

司馬貞　字は子徵唐の弘文院の学士史記索隱を著す

司馬穰苴　兵学軍術に達し司馬法其書あり

司馬温公　名は光字は君實宋の賢相なり書治鑑

資治通鑑と著す温公ハ謹ミ兒ニ向ヒ水瓶を割テ
友童を勸ケ　故事人口ニ膾炙ス
司馬禮　大中ノ時人詩を工ニシ時ニ稱シテ先輩ニ
先輩ニハ先生と云ヒ後ノ手本ニス
秦始皇　名ハ政周ノ末天下を一統シ阿房宮を建ツ万里
長城を築キ苛政ニ万民苦メリ二世胡亥の朝ニ趙
高李斯等政ヲ專ニシ楚の項羽ニ滅サル阿房宮
火をかけらるゝ事三月間消ざりしと
秦舞陽　燕ノ太子丹ニ命ジテ荊軻ニ副テ咸陽宮ニ
入リ始皇を刺ントセシに討ル所ニ殺サル
秦觀　字ハ少游又太虛と稱ス宋の書家ニ
秦檜　宋ニ仕ヘ二帝ニ從ヒ高宗ニ用ラレ僥倖ニテ
高官ニ居リ忠臣岳飛を忌ミ殺シ宋を亡ス
宴ニ出ケ人ヲ
荀子　名ハ況性惡の說を立テ孟子ノ性善ニ反セリ
ども一家の學問ニ
朱子　宋朝ノ人名ハ熹字ハ元晦又仲晦紫陽先生と
号ス又云雲谷老人其ノ草堂を晦庵と云故ニ晦翁と

稱し又遯翁と稱し歳七十一大林谷に葬る朱文公と謚す○
一説に云朱熹姓は朱字は考亭李延年の門人にして宋の
大儒二程の道統を○又説晩年佛道修行して
悟道を得て復た儒に立戻りて却て佛を謗ること
然れども經書に註する所周子佛氏を用ひること多し
禪録の中元晦とあるは朱子の名にして又遯翁晦庵同名
朱買臣　字は翁子貧困して薪を負ひて行て書を讀り
漢の武帝會稽山の太守に挙ぐ
朱雲　漢帝佞臣鄧馬周の事に諫め誅せんとせし
帝怒て朱雲を追ひ退けさせしに檻をとらへて狂諫
を吐て折れて帝後悔して損ぜず檻を修して忠
臣の名を表せり折檻の字是なり始て蒙求
に出たり
朱浮　字は叔元後漢の儒家なり
朱松　字は喬年尋斎と号す宋の書家なり
朱大年　元朝の画家なり
朱丹溪　名は震亨字は彦修博学にして且醫術に達し
元朝に高名し格致餘論局方發揮を著す

朱環　字、文衡、樗山と号、明の書家、

朱之蕃　字、元介、明の書家、

朱多爌　字、垣佐、宗謙と号、明の画家、

朱崇儒　字、輝之、憶雲と号、明の画家、

朱文治　字、簡叔、明朝の儒家、

朱式穀　人物の画をよくす、

朱綬　字、佩章、又端芳、画を善す、

朱彝尊　字、錫鬯、秀水、又竹垞と号、清の書家、

朱長文、　字、伯原、清朝の儒、

朱放　字、長通、襄州人、唐の詩人、

朱壽昌　宋人、七歳の時、其父壽昌が母を去りしられども、母の生死を知らざりしかば、壽昌が母を尋ねて、ようやく相逢ひぬ、時母の齢、七十四なりしが、二十四年の間、貞操を保ちて、夫の帰るを待ちしなり、

叔孫通　秦の博士なり、漢の高祖の時、太子の博士なり、能く科斗の文字を解す、科斗は科斗の形ちなる文字なり、

史游　漢の元帝の時の書家、章草の祖なり、

諸葛亮　字、孔明、初め農耕して在り、梁甫の吟をよむ、

管仲樂毅より比ス蜀の玄徳三ゝび草廬を顧(カヘリミ)後ケ操
政ラん渭南ノ陣中ニ卒ス歳五十四忠武侯と謚ス又々亮ノ
兄を瑾と云呉ニ仕フ弟ノ誕ハ魏ニ仕フ並ニ令名あり世ニ
謂フ蜀ハ龍を得呉ハ虎を得魏ハ豹を得ゝと
諸葛晋(ショカツシン) 字ハ晝三山水花鳥人物の画ヲ能ス
諸葛白岩(ハクガン) 字ハ宜齋浣雲居士と号画を能ス
鍾離權(ショウリケン) 後漢人字ハ寂道和谷子又王陽子雲房先生と
号ス後漢の時帝命を受ケ吐蕃を征ス利を失ひ山谷に
走リ異人に遇て深林に止リ遂に仙術及ヒ青龍の劔法を
授ケ列仙傳ニ載ル
鍾子期(シヤウシキ) 子期ハ伯牙ガ友ナリ伯牙琴を鼓(ヒク)子期其音を
聞て悉く伯牙ガ思ひの処を知ル子期死ノ後ケ世に音を知ル
者なしとて伯牙再ひ琴の弦断(タチ)ゝ鼓(ヒク)ベ是ハ同志の
友を知音(チイン)又ハ知己(チキ)或ハ斷琴(ダンキン)の友と云ふ事ハ列子湯
問篇に見ヘタリ又蒙求にも伯牙絶絃とあり
鍾馗(キ) 唐ノ玄宗の時終南山の進士鍾馗大臣と稱ス夢ニ現
悪鬼を殺ス其像を畫テ悪魔を避ク是鍾馗の
画の初メなり

鍾繇　字元常、魏の世の名筆なり、其の子鍾會、字士季、
行草の二書よ工みなり、

鍾惺　字伯敬、退谷と号す、明の書家、又山水の画をよくす、

鍾廷朝　字鮮伯、清朝人、書画をよくす、

車胤　晋人、字武子、博識多通、家貧しく常に油を以て
夏月は則ち練囊に數十の螢火を盛て書を照す、後ち
官尚書郎に至る、事は晋書に詳し、

初平　黄氏、後に赤松子と号、金華山の室の中に四十余年在り、
一日初平が兄の初起、羊の在る処を問へば、山東に
在りと云へり、行くこと里皆白石し、初平杖を以て石を叩て
叱咤すれば、白石皆変じて數千の羊となる、

舜舉　大元の世、錢塘の人、名は玉渾、趙昌を師として花
人物草木を画く、

晋文公　名は重耳、齊の桓公に継で諸侯の伯たり、

晋灼　字は子盛、晋朝の人、前漢書音釋四十卷を著す、

謝安　字は安石、晋の功臣、儒名あり、

謝道韞　謝安が兄の子、王敏夫操の儒し、

謝混　字は叔源、謝安が孫にして晋の儒家、

謝靈運　宋ノ世の文章家ニ、
謝惠連　靈運ガ族弟、文章高名ニ、
謝朓　字ハ宣遠、宋朝の人、六歳ニシテ文ヲ属ス、
謝偃　唐の詩人ニ、
謝莊　字ハ玄暉、齊ノ時、文章詩ヲ長ス、
謝上蔡　名ハ良佐、字ハ顯道、程門四先生の一人、胡安國ノ師ニ、
謝枋得　字ハ君直、疊山先生ト号ス、宋の末、元の儒家ニ、
謝右之　元朝の書家ニ、
謝肇淛　字ハ在杭、明の書家ニ、

謝林　字ハ瓊樹、明の書家ニ、
謝晉　字ハ孔昭、蘭庭生、又深翠道人、葵丘翁ト号ス、明、画家ニ、
謝天游　字ハ爾方、又芳仲ト号ス、明朝の画家ニ、
謝茂秦　名ハ榛、四溟山人ト号ス、明朝の詩家ニ、
謝鐸　字ハ鳴治、明朝の儒家ニ、
謝大癡　山水の画ヲ善ク、
謝固章　字ハ雲棹、西村ト号、清の書ヲ善ク、
謝煥　字ハ星采、清の書ヲ善ク、
謝堂　恕齋ト号ス、清の書家ニ、

沈約　字休文、南梁ノ時、初メ文字の四聲を分ツ、又書家ニ

沈佺期　字雲卿、唐ノ詩人ニ

沈右　字仲說、元の書家ニ

沈孟堅　元朝の画家ニ

沈雪坡　元朝の画家ニ

沈度　字民則、自樂と号ス、明の書家ニ

沈草亭　名璠、字魚石、書家ニ

沈耕亭　書家ニ

沈兆元　字人長、書をよくス

沈燮庵　名丙、書をよくス

沈筠圃　名猷、字不鳳、書家ニ

沈周　字石田、白石翁と号、明の画家ニ

沈德潛　字碻士、又歸愚と称ス、清の儒家、書をよくス

沈瑞鳳　字鳴岐、渭川と号ス、清の画家ニ

沈韶　字爾調、清の画家ニ

章孝標　唐の詩人ニ

向秀　字子期、晉の七賢の人、老荘をもとむ、荘とは註ス（老るゝ荘るゝ）

眞德秀　四歳にして書をよのび、後ち朱子の学をまなぶと字ふ

家の世の博物なり西山先生と呼ぶ

任昉　字彦升八歳にして文を屬し梁の時文章を名

常建　唐の時詩文を名

甄權　隋唐の醫道高名なり脈經針法書を著す

甄立言　甄權の弟にて兄弟ともに醫を名

初虞世　宋の醫家にて尊生要決其外著述多し

施沛　字沛然笠澤と号す明の醫家

施永圖　字公山明の醫家

施登光　樂庵と号す書をよくす

施見三　文山と号す書家

支秉中　改齋と号す明朝の醫家

祝世祿　字無功石林又寄々齋と号す明の書家

祝允明　字希哲枝山と号す明の書家又能く畫を画く

舜天王　琉球國の王にて鎮西八郎爲朝此の国に至り大里按司の女に娶て子を生り

岑參　南陽人唐の詩人詩集八卷世に行はる

釋皓然　姓謝字清晝湖州の人唐の詩人にして杼山詩式並に世に傳ふ

司空曙　字文明、唐の詩人なり、

出公輙　衛の霊公の孫にして、蒯聵が子也、罪ありて衛の国を去りぬ、霊公死して、子出公輙を君とす、父蒯聵此の由を聞き国に帰て衛の君となんとす、出公輙是を入じとて軍起す、此の時子路といふる人出公輙に仕へ居たりしが、父と弓を引き事を諫めしかども更に聞き入ざるゆへ、出公輙の楼を焼ともを

上利劔　剣に乗て波の上を浮びて仙人となる、

慈童　俗に傳て云、彭祖少年の稚なん、周の穆王に仕へ寵を儆り罪を被りて山に放され菊水を汲て飲て七百歳を保りしかども、謡曲の作意のごとく本據未詳、又説、慈童は周の穆王寵愛の童男にして容顔美麗いとなし、ある時帝夜の殿にいりたまひ慈童を召めされ枕をそで敷てうちまどろみ事いまだしてもれき人臣下けがれ衆をはばかりて慈童を流し遣んとす、幼稚なれば死罪をゆるし、さき流し遣んとすと奏しまいらせ帝いまだ若く

也石二句の偈をさづけのまをはらう慈嘉八鄙
懸山より引入り帝の命じのひ一二句の偈を朗々
唱しが忘やせんと答ひの通ふ菊多丸菊の
葉る書付て寄りる花菊のかゆるあれる所不老不
死の業とあり玉扇のれぐ新そるれ星乃民迄
七石余業を授へるとあや慈嘉ちりうり義を
授れども程か年の姿書ぶ魏の文帝の時を
彭祖と名のりしあや

車匿　悉陀太子王宮ゟ脱去ん時、健陟馬を牽しむ

○車匿ハ馬ゟ守りの奴し（仏経名）経音義ゟ

○拾遺

章安尊者　姓ハ呉、生して三月佛の名を唱ふ七歳ゟ
摂静寺ゟ入り日々念佛万言ゟ記し修禅寺の智顗ゟ
謁し印可を蒙り唐の貞観六年八月七日寂ス摠持尊
者と謚ス

慈恩　唐ノ世慈恩寺ゟ住し永淳元年寂ス法相宗の開祖
世ゟ慈恩大師と稱ス

慈炤　名ハ元慧、幻雲ゟ号ス清の高僧

松岳　名ハ宗潜、妙心流の高徳、尾州瑞泉寺ニ住ス

信叔　名ハ紹允、妙心流の高徳、濃州瑞竜寺ニ住ス

信海　名ハ孝雄、玉雲翁豊蔵房と稱ス、松花堂の高弟

書ヲヨクス　又狂歌ヲヨクス

周父　名ハ春育、相国寺ニ住シ、如雪ニ学ビ画風一家ヲ成シ

雪舟、宗旦、祐清等モ此ノ筆意ヲ準的トセリ

周徳　惟馨と号ス、防州雲谷庵ニ住ス、雪舟門ニテ画の

一家ヲヨクセリ

周耕　和州多武峯ニ住ス、雪舟門人、山水鍾馗の画ヲヨクス

秋月　名ハ等観、高城氏、雪舟門人、画家ニ後ヲ慎ミ入ル

如雪　九州の人、相国寺ニ在リ、画の妙ヲ究ム

松花堂　名ハ昭乗、中沼氏、式部卿の後、惺々翁、八幡

山今滝本坊ニ住ス、近衛龍山ニ学ブ、一家ヲヨクス、寛永

十六年没ス、歳五十六

浄飯王　天竺摩竭陀国、刹利師子頰王の子、釋尊父ニ

白女　源ノ造が女、江口の遊女ニテ、分人ヨリ

處女　人名ニ非ズ、女のいまだ嫁セザルヲ父ニ従フ者ヲ云

ヲトメと訓ス

主君 僕主人を呼て主君といふ左傳昭公に出たり

主客 主人と客人也又客をマロウドと訓ず賓客といへるもマロウド也マロウドハマレ人也主人ハ俗にいふ亭主也

諸侯 國君を諸侯と稱す侯ハキミと訓ず侯ともかけり侯に同じ

緇素 僧俗といふ事也緇ハ黒衣也素ハ白衣也

侍醫 天子の御脉を診ふる者を侍醫といへり

處士 士ノ未タ仕ヘ者不朝ニ於官而居ル家ニ者をいへり

相伴 本朝陪ニ高貴之食ニ者ヲ曰相伴ト。客と共食スル者にいふべし

ヒ之部 ヱハヱに収ム

ひとめ 人妻をいふ人の妻なれバ人めといへり

ひとよづま 遊女などを云一夜妻也

ひだのたくみ 飛騨匠といふ大工の事也むかし飛騨国より上手乃工匠出たれバ人の名によびて飛騨その名ありり

拾遺集 とにかくに物ハ思はずひだたくみうつ墨なはのたゞ一すぢに 人丸

ひさきを 販夫と云賤を買ひ貴に賣商賣人也

ひさきめ 販婦と云女の商賣人をいふ也。販とハ物を

賣事し、蠶とも書く、蠶男、蠶女とも云ても同名

ひるのこ　源氏物語の巻に、ひるのこの年ごろ過ぎぬるを、蛭子、恵比須の事、生まれ三年までは足なしなりしを、捨てしこと有り、蛭子の事を云ふ、蛭児尊、摂州西宮に鎮座、又、稚の巻より、蛭子が齢ひ、ようやく、こと葉を知りしことなり、又神祇の巻、蛭児の所を知る

びはほうし　源氏物語の巻に、入道殿の法師、なりて、琵琶法師なる

人磨　人麻呂、ともよむ、又人丸とも書く、石見の国の人、柿本氏、天智天皇の時の人、和哥を詠じ、古今に獨歩、朝に召されて石見、播磨等の守、任じ、柿本人丸と云、持統帝、文武帝の両帝に仕ふ、天平元年三月十八日石見の国に卒す、歳八十四、又時候門人丸忌の所に出す、今せんるべし

等　嵯峨天皇一世、源氏大納言弘の孫、中納言希の子、参議中納言等、天暦五年三月十日薨、歳七十二、歌人

東山義政　将軍足利家八世、慈昭院と号す、京の東山に隠居し、故に東山殿と称す、茶道高名し、古器名画多し、

東常縁　下野守、世に東野州と称す、和歌の連歌の道人し、又四部東野州の如き少し、

東竹堂　名は隆光、壽醉翁と号す、大隅子仮書と号す、元文年中没す、

東井玄朔　延壽院一渓の孫、養子なり、道三と稱す、醫道高名し、

肥山兼直　左京と稱す、香道の達人、

久田宗全　勘兵衛と称す、茶道瑞流宗佐門人、

名人、

久隅守景　半兵衛と称す、探幽守信門人、京に在り、画の高名し、

菱川師信　吉兵衛と称す、京の画工、春宮或は侍女を画て一流を称せり、

久欲　土佐一族、慶長の頃の人、画名あり、

平澤隨貞　買卜者の高名し、其子庸又たよく画り、

樋口次郎　兼光と称す本号義仲の臣なり

人見友元　姓小野名宣卿竹洞又崔山と号す羅山子の門人儒家なり

日野弘資　侍従綱言貞享年中薨ずなり

日向英俊　江戸の儒家なり

日比正廣　徹書記と書に号のび勅筆流と称す

秀衡　鎮守府将軍基衡の男奥列一國を領す義経氏高舘の城よりかくまひ頼朝是を征す

平山季重　頼朝に仕ふ武者所なり

平田墨梅　元名井流の書に号す

平野仲安　松葉軒と号す京人松花堂門書家なり

平野金華　名玄冲字子和源右衛門と称す奥列の人

徂徠門の儒家なり

平林淳信　字明義靜齋又消日居士と号す安部氏

称す廣澤門人書家なり

平岩仙桂　忘筌富主人と号す京に住す石川丈山門人

儒家なり

平河國倫　字士彝源氏と称す天竺老人風來山人号の

多の秘有り、博物の才士に、機智精巧ありて蕃器を
出すこと多し。又火浣布を織り出す。又工匠の数
多く行はる。

飛彈工　一人の名工なり。昔は花彈国より毎年蕃匠
一百人を貢ず。延喜式に出づ。始めは無しと雖
実に記す。

左甚五郎　蕃匠に神社佛閣彫工の絶妙なる左手を用
ゆるの名あり。

比干　殷の紂王の庶父なり。聖人にして紂王の無道を諫めら
聖人心に七つの竅ありと聞く。實ありやを試
として刺して殺せり。

微子　名は啓。殷の紂王の庶兄なり。賢人にして紂王を諫めて
ならざれば国を去る。及び退き生涯を全う。

稗竈　鄭人にして天文学の人なり。

費長房　仙術を得て百鬼を驅使し、後神符を失ひ
鬼魅に害せらる。汝南の人。

費漢源　名は深。山水人物を画せり。

費啓泰　字は建中。恵迪堂と号す。清の醫家。

追加

人　漢刑法志ニ云、人ハ霄天地之見、頭圓象天、足方象地、

○生　唐武后所制人字也、見代醉、○人間濫

觴ハ唐土ハ盤古氏也、天竺ハ毘婆尸佛也、日本

ハ天國常立尊也、○乾坤開闢呂律の氣、其清テ

輕ハ昇リ天トナリ、濁テ重キハ降リ地トナル、中和の

靈氣人トナレリ、

㋷之部

もろびと　諸人　もろもろの人、もろもろの人民、

もとつひと　もとつ人ハ俗ノ文字ナリ、ものしり百、

もとみしひと　もとみし人ハ物知リ、

もの　武士ハ上古ハ武勇の者を用て物部と云ふ

後世ものを轉して武士と作ル、

もの　明哲、儒、知識、等モノシリと訓ス、又タ哲の一字ニ

もものしり　物知リ、

のうふ　農夫、農民、農人、耕作を業人を云、百姓の

事ナリ、

ものぐるし　狂人、狂者、狂夫、俗ニ氣遠ト云ふ

文武天皇　草壁太子の御子、第二代の帝、和名の所云々

元良親王　陽成院の皇子、玄蕃卿と称し、歌人、天慶六年七月廿六日薨ス

元方　在原業平の孫、棟篠の男、歌道賞翫す国り〻

古今集巻頭〻ゆ〻り

元真　藤原清雅の男、丹後介、後拾遺集の撰者

元輔　清原深養父の孫、恭春の子、肥後守従五位上

一本、深養父の孫、顕忠の子と云〻、永祚二年六月卒ス歳

七十一、後撰集の撰者、梨壺五人の内の一人〻

基俊　堀川右大臣頼宗の孫、正二位右大臣俊家の男、

従五位下左衛門佐、保延四年出家、法名覚舞、俊

成卿の和歌の師、二条一流の和歌の祖、和漢の

才人、新撰朗詠、相撲方、悦目抄等の作あり

守屋　物部姓、弓削氏、尾輿の男、名は守屋、官位大連

小至、上宮太子と戦〻滅亡ス、上宮太子は聖徳太子の

事〻

物加波藏人　伊賀の国、藤の懐経の男、名は経尹、上西門院の

藏人に後德大寺實定の被官し事ハ平家物語に出メリ

物部金谷　萩生徂徠の男名ハ道濟字太寧父に継で博學し柳澤家の儒臣に

蒙所　名ハ光鍾字仲連新奥文治と称ス唐人に倣ひ一家の書法を立テ門人多シ

毛利貞齋　名ハ瑚珣字虛白香を進と称ス京の儒家に

紙に初学の学に事員原鳥信に並ぶ

森尚謙　字利渉儼塾又不深居と号ス摂州の人

水府公の史臣儒名あり

森東郭　名ハ鉄字大年彦根藩の儒家

桃田柳榮　名ハ守光探幽門画家

望月玉蟾　名ハ玄士佐光成門人後に雪溪に学ぶ

京の画家に延享年中没ス

望月長好　名ハ兼友京人貞德門弟に延宝年中没ス

望月三英　鹿門と号ス東都の官醫に文学を兼ねる

百瀬耕元　長雄流に出て世俗書一家に

本居翁　名ハ宣長勢州の産に賀茂真淵の流派に国学

木導　直氏、阿山人、孫、能林、

毛晃　宋朝人、字明之、達甫、禮部韻を増註、世伝、

毛苞　字、子晋、明朝の儒家、

毛奇齡　字、大可、清朝の書家、

毛萇　後漢の人、古詩を次序し、毛詩と云、則ち五経の内、詩經古註見る、

毛延壽　漢の時、画工、後宮の美人を写し、劣きを匈奴の婚せしむ、延壽、賄賂を送り、美貌を画れんことを求む、王昭君ひとり己が美質を憑て賄賂を贈らず、竟に醜女を書き、遂に胡国に嫁す、後に乃て帝、延壽を誅す、延壽、画工、延壽を刑す、

毛松　支那の人、画を学ぶ、

毛牆　支那の人、事實未詳、

㊦之部

芹つみ　むかしの人、門守の子、長者の娘を見ひそかに恋ひるが、彼の娘芹をこのめるを学き、せんこ芹つみて家に帰りしが、

芹つむ故事こゝろうつくし芹つむを思ひたつ人の仕
ゝぶん作り人

千載集哀

いつせんさうきゞ家に つむ芹はねるのこれあるに
ぶんの家ごやんつよおろかのはぎうん

芹つむ むかしのくゝ哀

せちりもさてこゝ　せちりとは国王の事にすること
臣下にせちりすること梵語（ボンゴ）

梵語（テンヂクコトバ）

いつゝくなるの屋る入の事ばせちりもすること
又㊀の歌の時候門ゆきて　せちりの歌池会せんぶ
せれ　まとりつくし丈男（ヲナ）こゝ又資（セコ）ともいう　これ資（ワガセコ）

なぐりつくを歌ゞまとりつ事又田舎ゞゞ中てはんの事を
せちりとつくし資（セナ）ぶんとゝ　ぶくなぶきこれ

伊勢物語

歌も物は物（キツ）ゝとりるゞ　ゞ歌ゞ物ゞ物ゞ
せきふじん　漢氏ゞ　せきふじんのゆゝ
とゝ戚（セキ）夫人（フジン）ハ漢の高祖の夫人　趙王如意（テウワウジヨイ）の母こ
恵帝太子ゝ　趙王を位ゝ　はうちんと計（カタ）て
つゝ事ゝ　高祖崩ゝ　ゝ
后（キサキ）呂后（リヨクワウ）　ゝの恨ゝ　恵帝ゝ告て戚夫
人ゝ　唖（ツンボ）ゝ　ゝ

厠の内に於て人埴と名づけ奉る　史記呂后
本紀に云太后遂断戚夫人手足去眼煇耳飲瘖
藥使居厠中命曰人埴とあり。人埴は女埴と
いつる事。埴は猪埴とつゞきて豕の事也。厠は雪隱の事也
せうと　脊人と云ふ弟八兄を脊人と云ふ姉は姉を脊人
といふ男の子を陽と云ふ女兄弟を脊人ともいつる
せうと　下男をいふ
清和天皇　文德帝の皇子五十六代の帝水尾帝と稱惟
喬親王と御位あらそひし惟仁親王
清慎公　貞信公の男小野宮殿白實頼の謚し廉義の
父ゆえ云へり
清少納言　清原深養父の曾孫肥後守元輔の女
一条院皇后宮定子の女房也才能の人にて枕草紙の
作者。清原姓の清の字代用し清少納言と号す
○一説に一条院御時宮いとゝ切なりしく後宮に帝を
御後ゝして香爐峯のあらぬいろんと仰られきれば
清少納言御簾を上げ人をつゞ中宮に御簾を
もゝとゝらるゝ世事世の未やりでも優なる事

云ひ伝へらるゝ歟。此香爐峯の事ハ白樂天老の後
此の峯の姿を以て一の草堂を卜し住居せし時の詩よ
遺愛寺鐘欹枕聽。香爐峰雪撥簾看。
とあるを常号に出されるなり。されど仰ぎ見ること
少納言のごとくにさとりて、そ侍御簾をかゝげるなり。
○山陰が紹巴ハ天暦の内裏の五人の分也なり。
惺窩　父を純と云。冷泉家に播州なる名蕭藤博
識のゝ朱子學の中興元和五年九月十二日沒ス
闢思恭　周防の人と称ス其男其寧ともに東武にて書の
高名なり。
蕭白　曾我氏、画ハ名人。
專碩　文明の比の人連歌の達人なり。
紹巴　奈良の人松村氏林江齋と号、連俳の達人。奈良
流と称ス太閤の付分の俳師なり慶長七年に沒ス
紹鷗　武田新四郎後ち武野氏と改ム大黒庵一閑居士と
称ス宗悟ともに墨ありて利休に伝ふ天禄元年沒ス
歳五十三
紹純　連俳の達人なり。

紹廉　六野氏、一炊庵と号す、法徳門大坂の能楽、明和年中没す

雪山　北島氏、元孫の氏書の高名し、又㊐ノ部まもす

雪村　雪舟の門人、元亀の頃、常列に在て画の高名し、

照元　作る木志津麿の女、常に高名し、

善道　名八三喜、範翁と号、筑前の人、明に入り醫を学び、

及二の師し

瀬田正忠　掃部と称す、茶道し、

千宗易　田中氏、後千と改む、号宗易と称す、不審庵抛筌

齋と号す、豊臣秀吉公より仕へ、三千石を賜ふ、居士の種を賜ふ、利休居士と号す、茶道を紹鷗に伝へ、中興の祖

天正十八年没す、歳七十四、

千利休　事八前に出す、

千宗淳　四郎右衛門と称す、利休次男にて家督す、少庵と号、

茶道を名し、慶長九年没す、

千道安　眠翁と号す、利休甥、病者し、天正年中没す、

千宗旦　名八元叔、又元伯、今日庵と号、宗淳の男、治元年

中没す、歳八十

千宗拙　用翁壺天と称す宗旦の男父子不和と云

千宗佐　宗旦の次男堪笑軒江岑と号す

千宗室　宗旦の三男仙叟と号す号を表流裏流と別る

元禄十年没す

千宗守　一翁似林斎休庵と号す宗旦の末子宗家

仕て延宝三年没す

仙鶴　堀内氏化笛斎と号す京の能林く戯画を善く

寛延年中没す沽徳門く

沽涼　菊岳氏崔下庵江戸の能林く江戸砂子の著

述あり人丸の像を中間明神の社に安置せり画を

善く

石燕　近世江戸の画名あり

蟬丸　姓氏不詳東齋隨筆に云敦實親王の雜色に

敦實の親王八管絃の道に達しの人蟬丸の琵

琶八見とゆきつゝて弾ぜしに盲目の

琵琶弾の事八昔れりと云云此の説非に後撰集の

詞書に相坂の関にて逢ひきの人を見んとて云

蟬丸盲目なれば見る事なかるべし口宇治拾遺に云

博雅の三位と云りし人も本覺とあやまり給ぶべし
しる法師の世にあるべしとぞ思ひ給ふ
ありしかと云へども此説を聖覺法印又釈
部禪九の如くなり

専以　誓願寺の僧書とも名ハ智光。天竜流の学僧

紹照　名ハ智光。天竜流の学僧

盛典　碩徳の僧。韵鏡易解其外著述あり

善鬼五鬼　役ノ行者の使令二種の名

善道大師　唐僧。天竺と父子。地獄。長安の滝

出現。弥陀の変身と称。弥陀経を書。十万巻を積。
唐の高祖永隆元年三月十日寂。捨身往生。
善無畏三藏　天竺の人。成實宗の首冠。跋摩三
藏より支那揚龍寺善無畏三藏に傳。又日本元明帝
和銅年中此ノ宗旨渡。唐ノ開元二十三年寂。歳九
十九

拙庵　名徳光。宗朝の高僧

雪巖　名ハ祖。欽無準の法嗣宗朝の高僧

笑隱　名大訢。廣智禪師と謚。元の高僧

省也　名貧微。白漢と号ス。清の高僧。

西伯　周ノ文王殷ニ仕ル時西方諸侯の伯。

西王母　仙女の長。名ハ回。字ハ婉妙。狀ハ人の如く豹ノ尾虎の齒。山海經又太平廣記ニ見ル

西施　會稽山の苧羅山ニ薪を鬻者の女。名ハ夷光又云西子。國色無双なれども范蠡これを吳ニ送ル

吳王夫蹇亡て後越ニ敗ル。蠡これを五湖ニ放と云

召公奭　周公旦の弟。賢人

冉伯牛　名ハ耕。孔門の高弟。十哲の人。德行を稱セラル

冉有　名ハ求。字ハ子有。孔門の高弟十哲の人。政事ニ稱セラル

昭烈帝　蜀の玄德。帝位ニ即キ後の謚号也。又⑦ノ部出ル

石勒　字ハ世龍。東晉の時匈奴の裔ニて潛て越王ト稱ス。乱をなすに其兵威をふるひ遅し

石弘猷　字ハ微中。書をよく

石奉ハ癩を病て卒ス。癩ハ癩病ニよるカッタヒ

錢起　字仲文、吳興人、唐ノ詩人ニ

錢良佑　字翼之、元ノ書家ニ

錢乙　字仲陽、宋ノ醫家ニ

錢倅　字角礼、宋ノ醫家ニ、傷寒百問ヲ著ス

錢選　字舜舉、玉潭又巽峯ト号ス、元ノ画家ニ

錢穀　字叔寶、罄室ト号ス、明ノ書家ニ

錢謙益　字牧齊、清朝ノ書家ニ

錢朝鼎　字采谷、清朝ノ画家ニ

錢封　字軼秦、松崖ト号ス、清ノ書家ニ

錢峻　字青崙、清ノ醫家ニ

全元起　梁ノ醫家ニ、黄帝素問訓解ヲ著ス

全魁　字手南、穆齋ト号ス、清ノ書家ニ

成公綏　晉朝ノ儒ニ、其ノ性寡欲ニ

昭明太子　梁ノ武帝ノ長子、蕭統、字德施、五歳ニ

五經ヲ讀リ、長ジテ後文選ヲ著ス

蕭穎士　字茂挺、四歳ニ詩ヲ賦シ、能ク文ヲ屬ス、長ジテ

後唐ノ博物ニ、遊梁新集ヲ著ス

蕭炳　蘭陵ノ處士ト号ス、唐ノ醫家ニ

蕭子雲　字、景喬、梁の書家、

薛瑩　晩唐人、詩人、洞庭詩集を著す、

薛業　天寶ノ間、柳芳と時を同じ、唐ノ詩人、

薛稷　字、嗣通、唐ノ書家、

薛景庸　名、昌朝、宋朝の人、横渠先生門人、儒家、

薛文清　明朝の儒家、

薛鎧　字、良武、會仁と号す、清の醫家、

薛己　字、新甫、立齋と号す、清の醫家、

邵康節　名、雍、字、堯夫、安樂先生と号す、李之才の門人、

天地の運化萬物の機變を達し、皇極經世書を著す、

又梅花心易を作す、康節は謚、

邵亨貞　字、復孺、明の書家、

邵詩南　字、禹航、書を善くす、

譙夢授　名、定、程門の宋儒、

葉雲龍　字、以潛、明の醫家、

葉向高　字、進卿、明の書家、

鮮于樞　字、伯機、元の書家、

郟韶　字、九成、雲臺史、又若溪漁者と稱す、元の画家、

饒魯　字、仲元、双峯と号、朱子門、宋の儒家、

饒鐸　明朝の醫家、明目良方四巻著ス

詹僖　字、仲和、鉄冠道人と号ス、明の書家、

詹景鳳　字、東圖、白岳山人と号ス、明の画家、

焦竑　字、弱侯、澹園と号ス、明の儒、書をよく、

焦秉貞　清朝の人、画ハ名人、

清何　清の儒家、真跡目録書画舫を著ス

戚南塘　清の儒家、紀効新書を著ス

盛寅　字、啓東、明朝の醫家、

盛端用　玉華子と号、明朝の醫家、

盛時英　清朝の人、画家、

聶尚恒　字、久吾、明朝の醫家、

單于　匈奴の君の号、漢書音義に云、單于ハ廣大の貌、自其廣大天に象を稱すると云云

追加

晴明　中納言廣庭の七世、安倍益材の男、花山院朝人、賀茂の保憲に就て天文学び、蘊奥を極ム、從四位下、大膳大夫、天文博士、

齊頼（セイライ） 源ノ齊頼ハ金吾忠隆ノ男後冷泉ノ朝ノ人出羽の國司鷹養（タカガヒ）の達人也今ノ世万品（バンピン）に堪（タエ）る者を齊頼（セイライ）といふ

（ス）之部

すくえう 源氏桐壺の巻に「すくえうのかしこきみちの人にかんがへさせ給ふにも」と是の註に宿曜（スクヨウ）師也 宿曜師ハ昔ハ一ツの道也廿八宿九曜（ヨウ）の行度（ギヤウド）を以て人の運命を勘る者をいふ也 智證大師の傳し所也 今云三世（サンゼ）相人（サウニン）といふ者是也

すゞめばら 源氏蓬生の巻に「されどもすゞめばらをひとゝなみにはと思ひ」すゞめばらとハすゞめばらじ奴僕（ヤツバラ）といふ事也 すゞめばらハあなどりていふ詞也 ひとしなみとハ等（ヒトシ）並（ナミ）と同じ義といふ事也

すけ すけとハ出家（シユツケ）し「こス」通音にて「シユツケを略してスケといへり「源氏夢の浮橋の巻にみえたり」

すなどり 猟師の事也 魚を取る事を業とする者也 漁父（スナドリ）漁子なといふ

ずさ 従者といふ 下部の事也

すこ　山田なる孫の男し、
すきもの　好事者、好色、色好の人なりし、
さぶらひ　侍従の略名し、
崇峻天皇　用明帝の皇子、三十二代の帝、蘇我馬子
弑しまつる、
崇徳院　鳥羽院の第一の皇子、七十五代の帝、讃岐国に
遷されの人、歌人し、又(三)の部に知る、
周防内侍　周防守継仲の女、後冷泉院の女房、仲子と号
し、作者部類に、周防守棟仲の女と云云、

相規　源姓、式部太輔、圓融帝の朝、詩文高名し、
佐幹　行忠王の男、平姓三河守と称し、家人し、
祐成　曽我十郎と称し、幼名一万丸、河津祐泰の長男
弟を五郎時致と云、両人、倶に父の仇、工藤左衛門、
尉祐経を討て、其所にて闘死せし、
駿河次郎　清重と号し、義経の臣、連歌の達人し、
杉原宗倡　加賀守と称し、連歌の達人、宗鼎門の第一し、
杉本善斎　麥庵と号し、蕉門の人、宗鼎門の第一し、
杉本左兵衛　楠正成の投助せし、泛男し、湊川の合戦

活きて勝利を得る事あり、

薄田隼人　大岡秀吉の家臣、力士にして一方の大將なれども身持放蕩にして我が陣中を脱して遊里に至り、酒宴に耽り、女郎に溺れ、遂に空腹にして敵に討れ、大岡記に詳なり、

鈴木正真　七郎左衛門と称す、臨池堂と号す、市家流の書法を学ぶ、

菅原玄同　得庵と号す、惺窩門人儒家なり、

菅甘谷　名晨曜、字子旭、小名を称す、儒なり、

瑞桐居士　万里居士の男、梅花無盡蔵と称す、大田道灌と友なり、

墨江滄浪　名昭猷、字君徽、肥後侯の儒なり、

嵩谷　高氏、英林斎と号す、英一蝶の画法を学ぶ、近世東武の高名なり、

首藤文右衛門　俗書の一流なり、

鄒福　字魯濟、明朝の醫者家なり、驗効良方を著す、

追加

捨女　丹列梅系の人、田辺の女、文川正堅門人、後

盤溪を師とし尼
貞周と号し俳諧を業
元禄年中没ス歳七十五

帝国図書館
帝国図書館
内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan